

令和6年度（2024年度） 公共事業評価／評価資料

評価の種類	事後評価
事業（計画）名	社会資本総合整備計画 九州中央の交流拠点となる魅力的なまちづくり （第2期）
事業（計画）期間	平成30年度～令和4年度（5年間）
担当課	都市建設局 土木部 道路計画課

1 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況

事業（計画）の概要

事業（計画）の名称	社会資本総合整備計画 九州中央の交流拠点となる魅力的なまちづくり（第2期）	
事業（計画）期間	平成30年度～令和4年度（5年間）	
事業（計画）目標	・九州中央の交流拠点にふさわしい、熊本駅をはじめとした広域交通拠点における結節機能の向上及び、広域道路網等による九州中央のハブ機能の確立を図る。	
概要	A 基幹事業 （都）熊本駅城山線（東西） 現道拡幅 L = 0.61km 285百万円 ほか4事業	
事業費	3,042百万円	
経緯	H15 道路整備プログラムの策定 H24 道路整備プログラムの見直し（政令指定都市移行） H25 整備計画「九州中央の交流拠点となる魅力的なまちづくり（第1期）」事業着手 H30 整備計画「九州中央の交流拠点となる魅力的なまちづくり（第2期）」事業着手 R1 道路整備プログラムの見直し	
定量的指標	熊本都市圏主要幹線道路の渋滞時における自動車の平均走行速度をR4秋までに26%向上させる。	H29年度：19km/h⇒R4年度：24km/h
	拠点間の所要時間の短縮	H29年度：48分⇒R4年度：31分
	熊本駅周辺整備・連立関連事業による駅周辺の通行量を18%増加させる。	H29年度：46,248人⇒R4年度：54,748人

交付対象事業

事業名	事業種別	事業箇所	事業内容	実施期間	事業費
A 基幹事業 (5事業)					
① 道路事業	街路	(都) 熊本駅城山線 (東西)	現道拡幅 L=0.61km	H30~H31	285百万円
		※ほか3事業		小計	542百万円
② 道路事業	道路	(一) 天明川尻線 (海路口・奥古閑工 区)	アクセス道路 L=2.8km	H30~R4	2,500百万円
				小計	2,500百万円
B 関連事業 (0事業)					
-	-	-	-	-	0百万円
C 効果促進事業 (0事業)					
-	-	-	-	-	0百万円
全体事業費 (A+B+C)					
					3,042百万円

※全事業については、別紙「事後評価書」の交付対象事業欄を参照。

事業概要図 (道路事業)

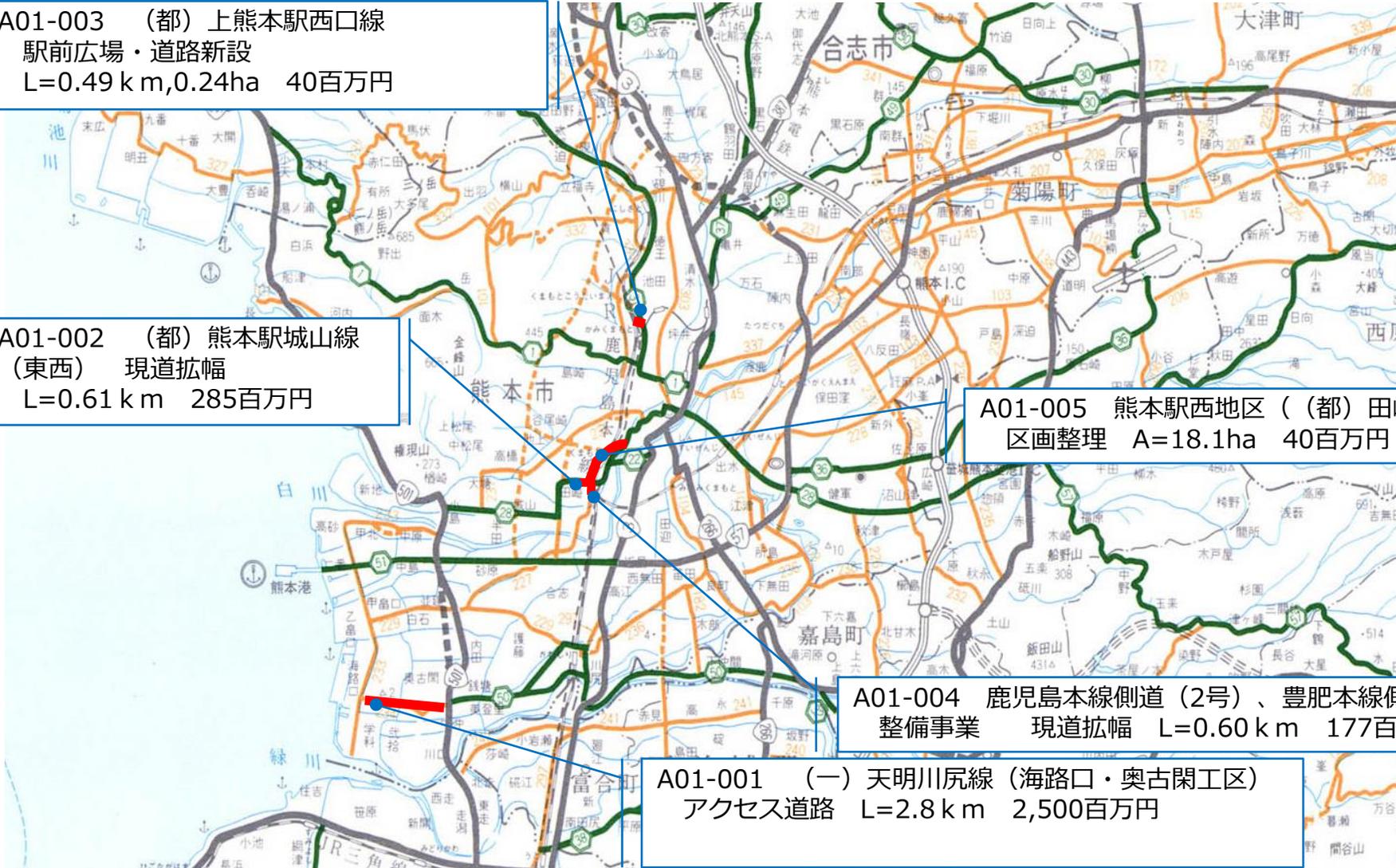
A01-003 (都) 上熊本駅西口線
駅前広場・道路新設
L=0.49 km, 0.24ha 40百万円

A01-002 (都) 熊本駅城山線
(東西) 現道拡幅
L=0.61 km 285百万円

A01-005 熊本駅西地区 ((都) 田崎春日線外)
区画整理 A=18.1ha 40百万円

A01-004 鹿児島本線側道 (2号)、豊肥本線側道 (1号)
整備事業 現道拡幅 L=0.60 km 177百万円

A01-001 (一) 天明川尻線 (海路口・奥古閑工区)
アクセス道路 L=2.8 km 2,500百万円



基幹事業：道路事業（（都）熊本駅城山線（東西））

事業内容

本道路は、熊本市西部地域と交通結節点である熊本駅を結ぶ重要な路線である。しかしながら、交通容量の不足による慢性的な渋滞が生じていたため、JR鹿児島本線等連続立体交差事業に合わせ、当該区間の拡幅整備を行うことにより、熊本駅周辺の渋滞が緩和され、熊本駅へのアクセス性が向上した。



引用：国土地理院地図

整備前



整備後



【1】九州中央の交流拠点となる魅力的なまちづくり（第2期）

◇ 本計画では、下記に記載の「国の重点施策」に応じた事業が対象。

【ストック効果を高めるアクセス道路の整備】

・「物流ネットワークの強化に資する、港湾・空港・IC・鉄道駅の整備※1」および「成長基盤の強化に資する、工業団地の造成など民間投資」と供用時期※2を連携させて行われるアクセス道路整備事業

※1：対象施設において、新設・機能強化が行われる事業に限る。

※2：アクセスする対象施設の供用時期が公表されているものに限る。

◇ 事業内容と成果指標の考え方（国の重点施策対象）

事業案件番号	重点施策	事業内容	全体事業費 (百万円)	事業実施期間	指標番号	主な事業	成果指標設定の考え方
1	IC・駅の整備と供用時期を連携させて行われるアクセス道路整備	現道拡幅 (2事業)	462	計画期間内に完了 (H30~R4)	①、②、④	(都) 熊本駅城山線 (東西)	<ul style="list-style-type: none"> 本計画は全5事業 「駅周辺の現道拡幅」や「IC付近のアクセス道路」等の事業実施により、熊本駅周辺の渋滞の緩和や熊本駅へのアクセス性の向上に寄与することから、「熊本駅周辺整備・連立関連事業による駅周辺の通行量を18%増加させる」、「熊本都市圏主要幹線道路の渋滞時における自動車の平均走行速度をR4秋までに26%向上させる」および「拠点間の所要時間の短縮」の成果指標を設定。
		駅前広場・道路新設 (1事業)	40		①、④		
		区画整理 (1事業)	40		④		
		アクセス道路 (1事業)	2,500	R4以降完了	-		

※アクセス道路（事業箇所：天明川尻線）に関しては、政令市以前より実施している長期事業であり、計画期間内での効果発現が困難。

◇ 本計画の定量的指標

事業案件番号	整備計画名称	計画期間	指標番号	定量的指標	当初現況値	最終目標値	実績値	判定	事業（計画）目標
1	九州中央の交流拠点となる魅力的なまちづくり（第2期）	平成30年度～令和4年度	①	熊本都市圏主要幹線道路の渋滞時における自動車の平均走行速度をR4秋までに26%向上させる	19km/h	24km/h	18.6km/h	未達成	九州中央の交流拠点にふさわしい、熊本駅をはじめとした広域交通拠点における結節機能の向上及び、広域道路網等による九州中央のハブ機能の確立を図る。
			②	拠点間の所要時間の短縮	48分	31分	48分	未達成	
			④	熊本駅周辺整備・連立関連事業による駅周辺の通行量を18%増加させる	46,248人	54,748人	70,560人	達成	

2 事業の効果の発現状況

事業の効果の発現状況

基幹事業
道路事業（（都）熊本駅城山線（東西））

連続立体交差事業に合わせ、現道拡幅整備を行うことにより、熊本駅周辺の渋滞が緩和され、熊本駅へのアクセス性向上が図られるとともに、駅周辺のにぎわいの創出の効果が発現されており、また安全で円滑な通行環境の確保にも寄与している。

■ 熊本駅周辺のにぎわいの創出

（都）熊本駅城山線（東西）の交通量増加

【交通センサス】 H27：11,203台/12h → R3：13,505台/12h

■ 熊本駅周辺の渋滞の緩和

（都）熊本駅城山線（東西）の平均走行速度の増加

【交通センサス】 H27：13.2km/h → R3：18.9km/h

■ 安全で円滑な通行環境の確保

整備前は歩道の幅員が狭く、歩行者等の通行に支障が生じていたが、自転車歩行者道の整備により、自転車、歩行者ともに安全で円滑な通行環境が確保された。



▲ 熊本駅周辺整備状況



▲ (都)熊本駅城山線（東西）利用状況

3 評価指標の最終目標値の達成状況

評価指標の最終目標値の達成状況

計画の目標		九州中央の交流拠点にふさわしい、熊本駅をはじめとした広域交通拠点における結節機能の向上及び、広域道路網等による九州中央のハブ機能の確立を図る。			
計画の成果指標 (定量的指標)	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			達成状況 (結果) (R4末)
		当初現況値 (H29末)	中間目標値 (R2末)	最終目標値 (R4末)	
熊本都市圏主要幹線道路の渋滞時における自動車の平均走行速度をR4秋までに26%向上させる。	熊本都市圏における主要幹線道路の朝ピーク時間帯における平均速度を実測する。(秋期・平日3日間)(平均速度 = Σ (路線延長 × 路線平均速度) / (全路線延長))	19km/h	22km/h	24km/h	未達成 18.6km/h 2%減少
拠点間の所要時間の短縮	熊本都市圏北部地域から熊本駅までの所要時間を計測する。	48分	-	31分	未達成 48分
熊本駅周辺整備・連立関連事業による駅周辺の通行量を18%増加させる。	駅周辺の歩行者等の通行量を計測する。	46,248人	50,748人	54,748人	達成 70,560人 52.5%増加

4 対応方針（案）

市の対応方針

<p>今後の方針</p>	<p>本計画（第2期）としては計画完了するが、未完了事業については、令和5年から新たに着手している他の関連する計画等において引き継いでおり、引き続き道路整備等を行い、事業推進する取り組みを継続していく。</p>
<p>今後の事後評価の必要性</p>	<p>本計画の未完了事業については、令和5年から新たに着手している他の関連する計画等の完了後にも事後評価を行う予定であるため、改めて本計画に対する事後評価（フォローアップ）は行わない。</p>
<p>改善措置の必要性</p>	<p>本計画で設定した指標について、一部目標値に届いていない指標があるが、各事業単位では整備効果を発現している。本指標に関する未完了事業については今後、他の関連する計画等において事業推進していくことから改善措置の必要性はないと考える。</p>
<p>同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p>	<p>本計画については、計画完了していることから見直しの必要性はない。未完了事業については、他の関連する計画等において事業推進していくため、他計画等にて見直しを行う。</p>

令和6年度（2024年度） 公共事業評価／評価資料

評価の種類	事後評価
事業（計画）名	社会資本総合整備計画 渋滞を緩和し、良好な生活環境を確保する道路整備 （第2期）
事業（計画）期間	平成30年度～令和4年度（5年間）
担当課	都市建設局 土木部 道路計画課

1 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況

事業（計画）の概要

事業（計画）の名称	社会資本総合整備計画 渋滞を緩和し、良好な生活環境を確保する道路整備（第2期）	
事業（計画）期間	平成30年度～令和4年度（5年間）	
事業（計画）目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 渋滞を緩和し、安全で円滑な道路交通を確保するため、骨格となる幹線道路網の整備を図る。 ・ 利便性向上及び産業活動や地域づくりなどを支えるため、地域課題に対応した道路整備を推進する。 	
概要	A 基幹事業 米塚田底第1号線（米塚工区） 現道拡幅 L = 0.72 km 232百万円 ほか22事業	
事業費	11,865百万円	
経緯	H15 道路整備プログラムの策定 H24 道路整備プログラムの見直し（政令指定都市移行） H25 整備計画「渋滞を緩和し、良好な生活環境を確保する道路整備（第1期）」事業着手 H30 整備計画「渋滞を緩和し、良好な生活環境を確保する道路整備（第2期）」事業着手 R1 道路整備プログラムの見直し	
定量的指標	熊本都市圏主要幹線道路の渋滞時における自動車の平均走行速度をR4秋までに26%向上させる。	H29年度：19km/h⇒R4年度：24km/h
	地域課題に対応した道路整備を推進し、地域計画に位置付けられた路線の着手率を90%に向上させる。	H29年度：60%⇒R4年度：90%
	熊本駅周辺整備・連立関連事業による駅周辺の通行量を18%増加させる。	H29年度：46,248人⇒R4年度：54,748人

交付対象事業

事業名	事業種別	事業箇所	事業内容	実施期間	事業費
A 基幹事業 (23事業)					
① 道路事業	道路	米塚田底第1号線 (米塚工区)	現道拡幅 L=0.72km	H30~R3	232百万円
		※ほか21事業		小計	11,650百万円
② 道路事業	街路	(都)池田町花園線 ほか3線	バイパス整備 L=0.75km	H30	215百万円
				小計	215百万円
B 関連事業 (0事業)					
-	-	-	-	-	0百万円
C 効果促進事業 (0事業)					
-	-	-	-	-	0百万円
全体事業費 (A+B+C)					
					11,865百万円

※全事業については、別紙「事後評価書」の交付対象事業欄を参照。

事業概要図 (道路事業)



A01-010 米塚田底第1号線 (米塚工区)
現道拡幅 L=0.72 km 232百万円

A01-005 富応山本第1号線 (市尾工区)
現道拡幅 L=1.2 km 533百万円

A01-006 植木～古閑線 (岩野工区)
バイパス整備 L=1.2 km 181百万円

A01-009 鶴羽田町改寄町第1号線 (改寄町工区)
バイパス整備 L=0.47 km 371百万円

A01-012 (一) 辛川鹿本線 (中原工区)
バイパス整備 L=0.75 km 335百万円

A01-007 (主) 交差道路 (熊本玉名線ほか26路線)
現道拡幅・新設 L=0.3 km 12百万円

A01-004 舞原第5号線 (舞原工区)
現道拡幅 L=0.8 km 66百万円

A01-002 清藤第5号線
現道拡幅 L=0.26 km 256百万円

A01-008 隈庄六田第1号線
現道拡幅 L=0.54 km 272百万円

A01-001 富合宇土南北線
現道拡幅 L=2.1 km 557百万円

A01-003 塚原藤山第2号線 (藤山工区)
現道拡幅 L=1.6 km 272百万円

事業概要図 (道路事業)

A01-015 (一) 原植木線 (岩野工区)
現道拡幅 L=0.18 km 124百万円

A01-014 (主) 熊本原坂線 (社町跨線橋)
現道拡幅・橋梁架替 L=1.04 km 980百万円

A01-019 (一) 植木河内港線 (東門寺工区)
現道拡幅 L=0.9 km 500百万円

A01-021 (一) 植木河内港線 (河内工区)
現道拡幅 L=0.8 km 924百万円

A01-016 壺川1丁目津浦町第1号線 (壺川工区)
現道拡幅 L=0.1 km 77百万円

A01-020 (主) 熊本高森線 (通町筋地下道)
現道拡幅 L=0.07 km 64百万円

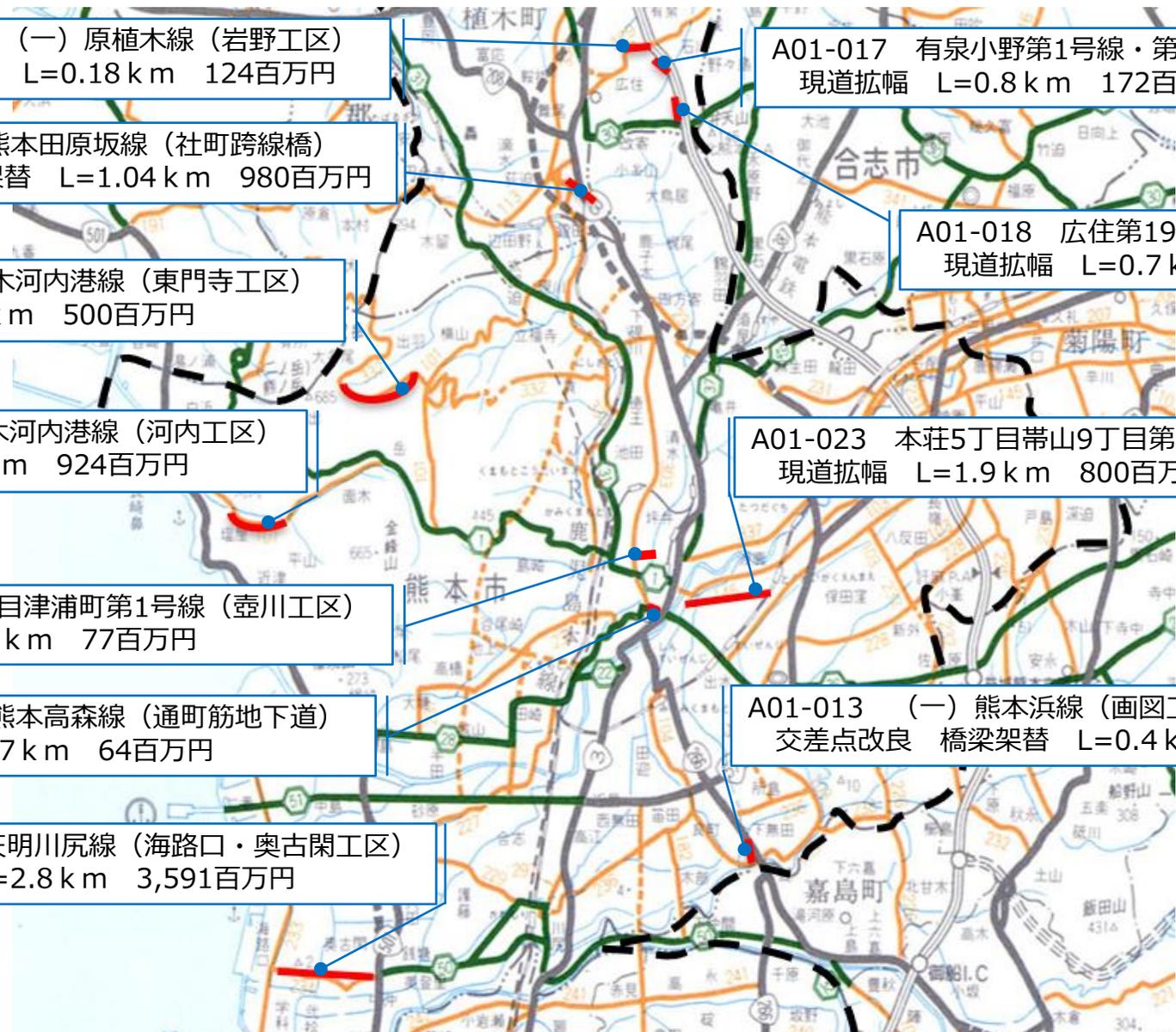
A01-022 (一) 天明川尻線 (海路口・奥古閑工区)
アクセス道路 L=2.8 km 3,591百万円

A01-017 有泉小野第1号線・第2号線 (小野工区)
現道拡幅 L=0.8 km 172百万円

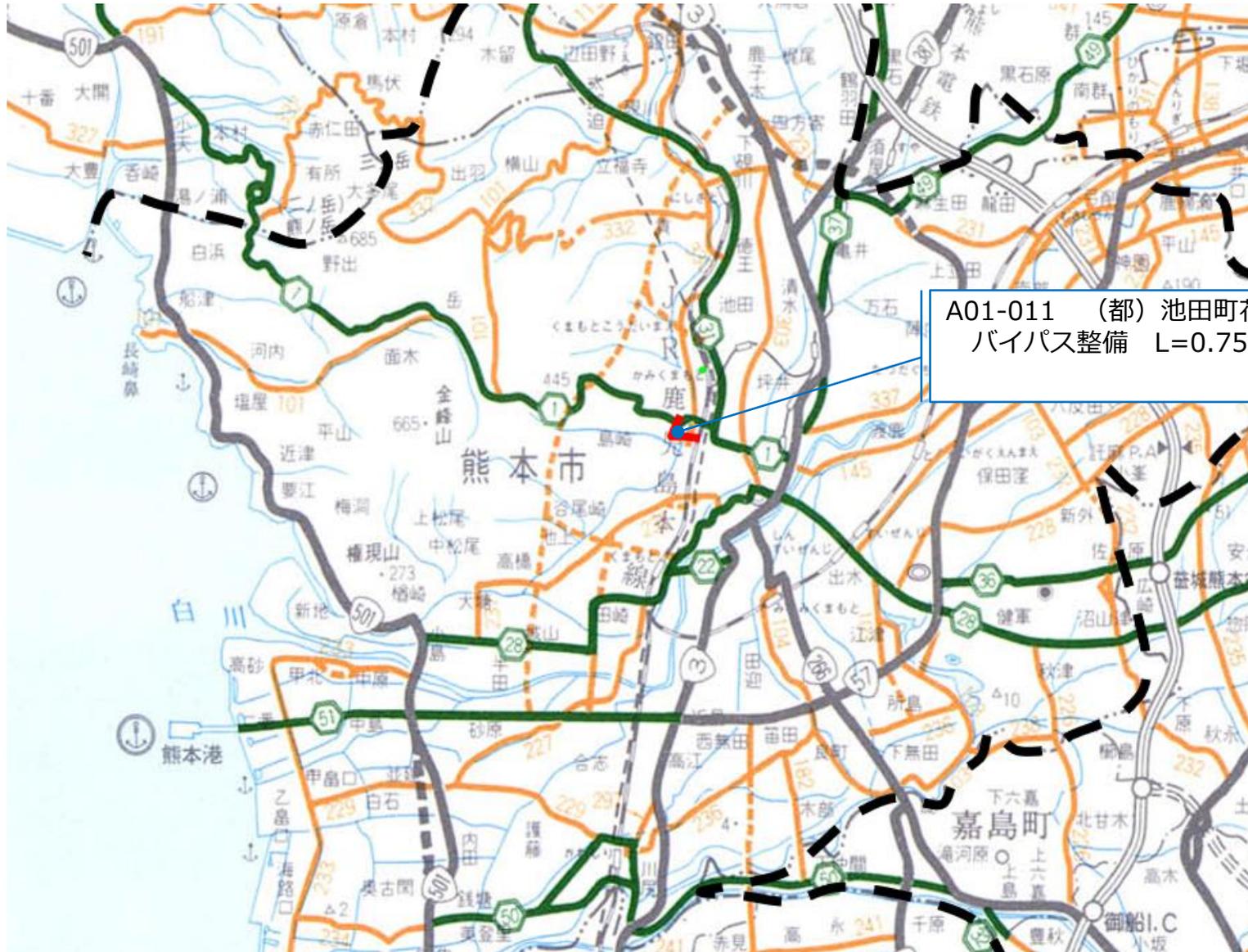
A01-018 広住第19号線 (広住工区)
現道拡幅 L=0.7 km 531百万円

A01-023 本荘5丁目帯山9丁目第1号線 (産業道路)
現道拡幅 L=1.9 km 800百万円

A01-013 (一) 熊本浜線 (画図工区)
交差点改良 橋梁架替 L=0.4 km 800百万円



事業概要図 (道路事業)



A01-011 (都) 池田町花園線ほか3線
バイパス整備 L=0.75 km 215百万円

【2】渋滞を緩和し、良好な生活環境を確保する道路整備（第2期）

◇ 本計画では、「国の重点施策でない」事業を実施。

【非重点事業】

- ・国の重点施策の対象とならない、現道拡幅やバイパス道路の整備を実施することで、渋滞の緩和および利便性向上、地域課題への対応など、安全で円滑な道路交通の確保および地域活性化等につながる事業の推進を目的とした計画である。

◇ 事業内容と成果指標の考え方

事業案件番号	施策	事業内容	全体事業費 (百万円)	事業実施期間	指標番号	主な事業	成果指標設定の考え方
2	渋滞の緩和及び地域課題に対応した整備	現道拡幅 (16事業)	5,392	計画期間内に完了 (H30~R4)	①、③、④	米塚田底第1号線 (米塚工区)	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画は全23事業 ・「現道拡幅」や「バイパス整備」等の事業実施により、渋滞の緩和や地域課題に対応した整備、利便性向上に寄与することから「熊本都市圏主要幹線道路の渋滞時における自動車の平均走行速度をR4秋までに26%向上させる」や「地域課題に対応した道路整備を推進し、地域計画に位置付けられた路線の着手率を90%に向上させる」を成果指標として設定。 ・また本計画内には、駅周辺の現道拡幅事業があり、「熊本駅周辺整備・連立関連事業による駅周辺の通行量を18%増加させる」においても成果指標として設定。
		バイパス整備 (4事業)	1,102		①、③		
		橋梁架替（交差点改良、現道拡幅） (2事業)	1,780		①		
		アクセス道路 (1事業)	3,591	R4以降完了	-		

◇ 本計画の定量的指標

事業案件番号	整備計画名称	計画期間	指標番号	定量的指標	当初現況値	最終目標値	実績値	判定	事業（計画）目標
2	渋滞を緩和し、良好な生活環境を確保する道路整備（第2期）	平成30年度～令和4年度	①	熊本都市圏主要幹線道路の渋滞時における自動車の平均走行速度をR4秋までに26%向上させる	19km/h	24km/h	18.6km/h	未達成	<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞を緩和し、安全で円滑な道路交通を確保するため、骨格となる幹線道路網の整備を図る。 ・利便性向上及び産業活動や地域づくりなどを支えるため、地域課題に対応した道路整備を推進する。
			③	地域課題に対応した道路整備を推進し、地域計画に位置付けられた路線の着手率を90%に向上させる	60%	90%	85%	未達成	
			④	熊本駅周辺整備・連立関連事業による駅周辺の通行量を18%増加させる	46,248人	54,748人	70,560人	達成	

2 事業の効果の発現状況

事業の効果の発現状況

基幹事業
道路事業（米塚田底第1号線（米塚工区））

車道を拡幅し、新たに歩道を整備することにより、安全で円滑な道路交通の確保および歩行者の安全性を向上させるとともに、北区の観光並びに産業の発展においても、地域課題であった観光施設へのアクセス性の向上に寄与している。

■ 観光施設へのアクセス性の向上

国道3号と植木温泉を結ぶアクセス道路であり、観光バス等の大型車の通行も円滑に通行できるようになった。

■ 安全で円滑な道路交通の確保

整備前は幅員が狭く離合が困難であり、自動車と歩行者が混在して通行する等、交通に支障が生じていたが、整備後は自動車、歩行者ともに安全で円滑な通行が可能になった。



3 評価指標の最終目標値の達成状況

評価指標の最終目標値の達成状況

計画の成果指標 (定量的指標)	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			達成状況 (結果) (R4末)
		当初現況値 (H29末)	中間目標値 (R2末)	最終目標値 (R4末)	
計画の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞を緩和し、安全で円滑な道路交通を確保するため、骨格となる幹線道路網の整備を図る。 ・利便性向上及び産業活動や地域づくりなどを支えるため、地域課題に対応した道路整備を推進する。 				
熊本都市圏主要幹線道路の渋滞時における自動車の平均走行速度をR4秋までに26%向上させる。	熊本都市圏における主要幹線道路の朝ピーク時間帯における平均速度を実測する。(秋期・平日3日間)(平均速度 = Σ (路線延長 × 路線平均速度) / (全路線延長))	19km/h	22km/h	24km/h	未達成 18.6km/h 2%減少
地域課題に対応した道路整備を推進し、地域計画に位置付けられた路線の着手率を90%に向上させる。	地域計画に位置付けられた路線の着手率。	60% 29/48路線	75%	90%	未達成 85% 40/47路線
熊本駅周辺整備・連立関連事業による駅周辺の通行量を18%増加させる。	駅周辺の歩行者等の通行量を計測する。	46,248人	50,748人	54,748人	達成 70,560人 52.5%増加

4 対応方針（案）

市の対応方針

<p>今後の方針</p>	<p>本計画（第2期）の成果を踏まえ、令和5年から新たに着手している社会資本総合整備計画「渋滞を緩和し、良好な生活環境を確保する道路整備（第3期）」に沿って、引き続き道路整備等を行うことで、渋滞を緩和し、安全で円滑な道路交通を確保するため、骨格となる道路網の整備を推進する取り組みを継続していく。</p>
<p>今後の事後評価の必要性</p>	<p>令和5年度より策定・開始済みの「渋滞を緩和し、良好な生活環境を確保する道路整備（第3期）」の完了後にも事後評価を行う予定であるため、改めて本計画に対する事後評価（フォローアップ）は行わない。</p>
<p>改善措置の必要性</p>	<p>本計画で設定した指標について、一部目標値に届いていない指標があるが、各事業単位では整備効果を発現しており、今後も第3期計画において事業推進していくことから改善措置の必要性はないと考える。</p>
<p>同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p>	<p>定量的指標については、見直しのうえ、新たな同種事業の計画に活かしていく。また、国等の上位計画や本市の関連計画と整合性を図り、優先順位等を考慮し事業実施していく。</p>

令和6年度（2024年度） 公共事業評価／評価資料

評価の種類	事後評価
事業（計画）名	社会資本総合整備計画 災害に強く市民が安心できるまちづくり（防災・安全）（第2期）
事業（計画）期間	平成30年度～令和4年度（5年間）
担当課	都市建設局 土木部 道路計画課

1 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況

事業（計画）の概要

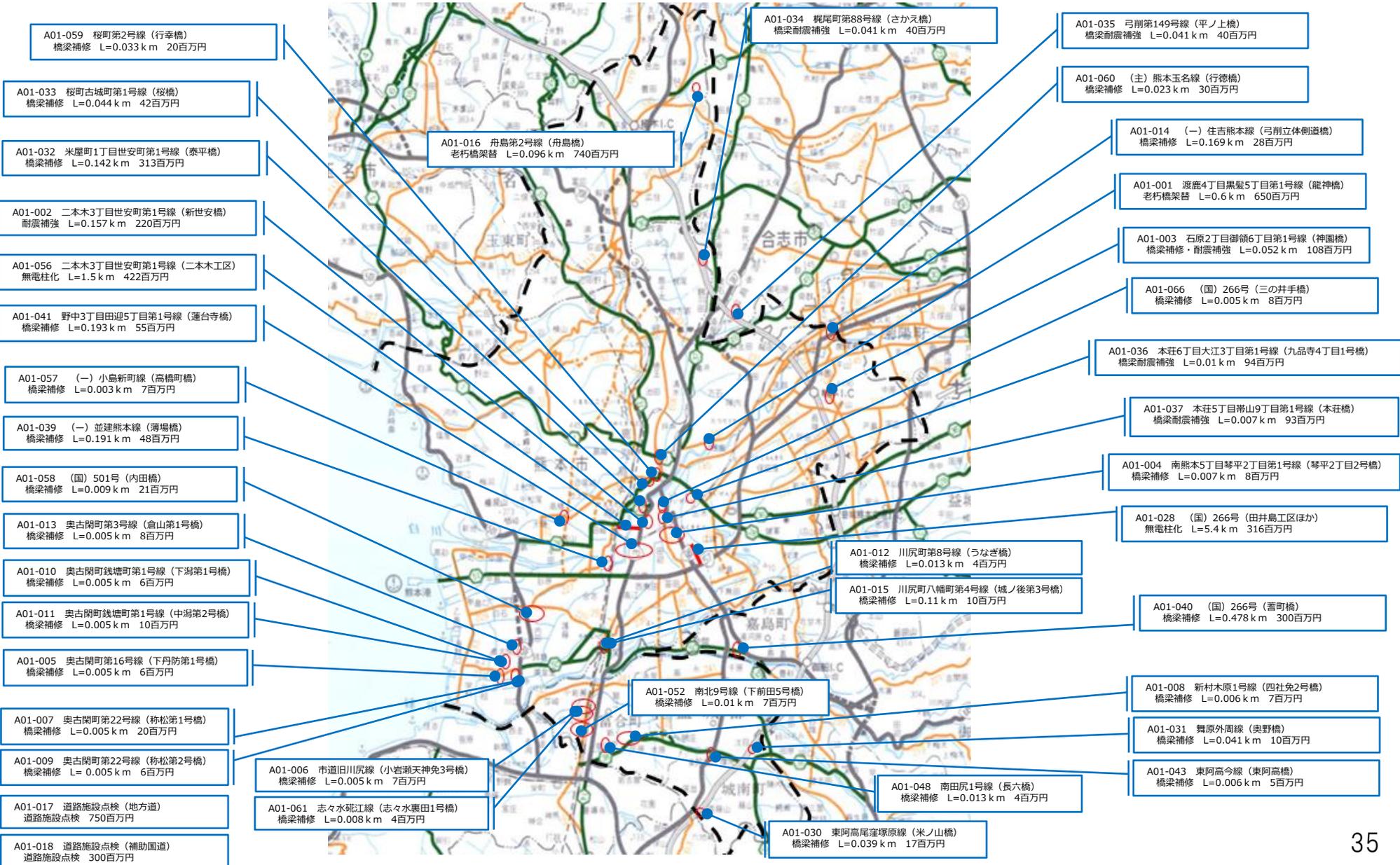
事業（計画）の名称	社会資本総合整備計画 災害に強く市民が安心できるまちづくり（防災・安全）（第2期）	
事業（計画）期間	平成30年度～令和4年度（5年間）	
事業（計画）目標	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強く、安心して快適な都市生活を営むため、道路整備と共に既存ストックの効率的で適切な維持管理を図る。 ・災害に強いまちづくりと快適な歩行空間の創出のため、電線共同溝の整備を図る。 	
概要	A 基幹事業 （国）266号（田井島工区ほか） 無電柱化 L = 5.4km 316百万円 ほか190事業	
事業費	11,678百万円	
経緯	H15 道路整備プログラムの策定 H24 道路整備プログラムの見直し（政令指定都市移行） H25 整備計画「災害に強く市民が安心できるまちづくり（防災・安全）（第1期）」事業着手 H30 整備計画「災害に強く市民が安心できるまちづくり（防災・安全）（第2期）」事業着手 R1 道路整備プログラムの見直し	
定量的指標	熊本市域の緊急輸送路における橋梁（L=15m以上）の耐震化完了率を令和4年度末までに78%に向上させる。	H29年度：57%⇒R4年度：78%
	熊本市域の無電柱化計画路線における緊急輸送道路の無電柱化完了率を令和4年度末までに94%に向上させる。	H29年度：89%⇒R4年度：94%

交付対象事業

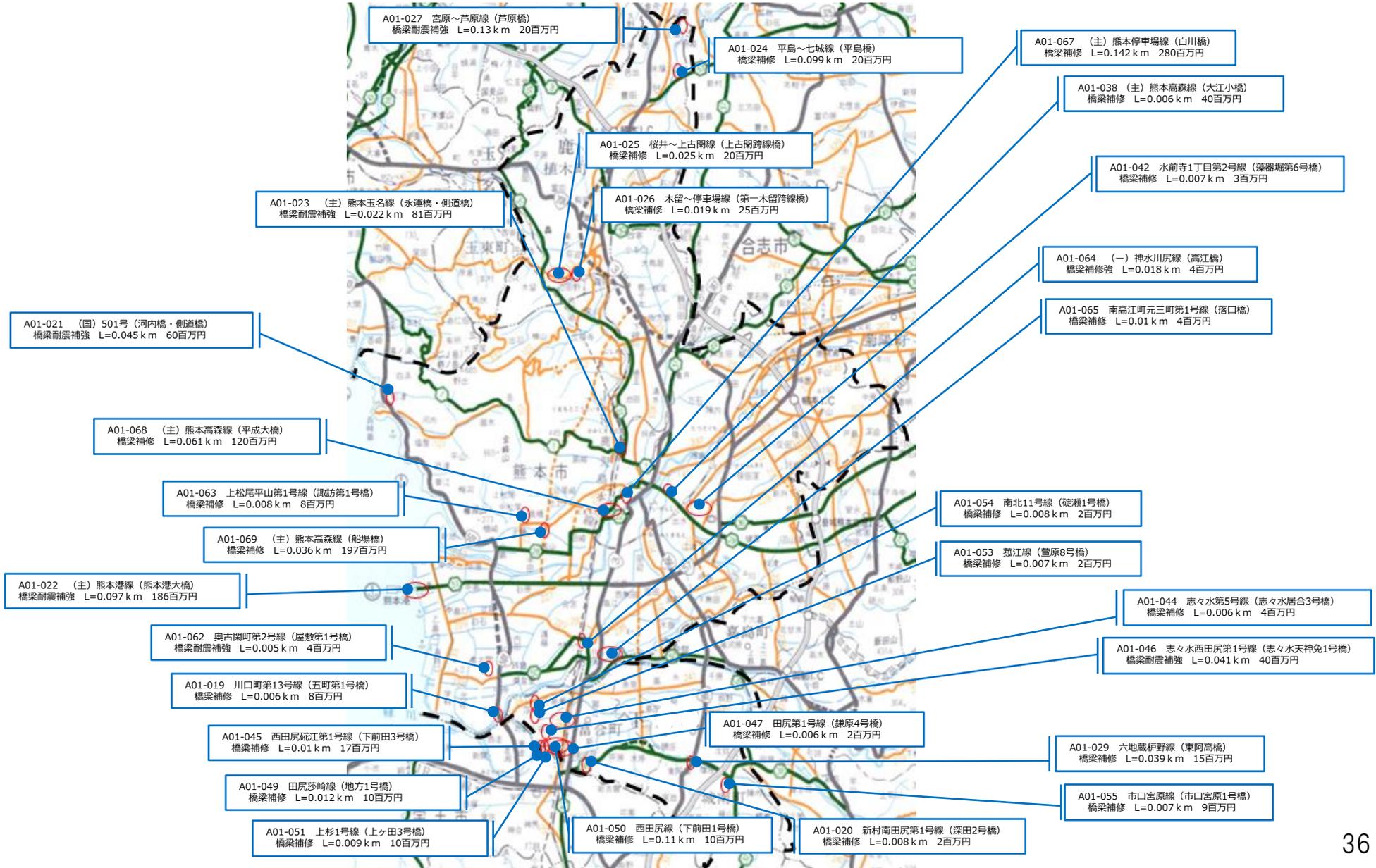
事業名	事業種別	事業箇所	事業内容	実施期間	事業費
A 基幹事業 (191事業)					
① 道路事業	道路	(国) 266号 (田井島工区ほか)	無電柱化 L = 5.4km	H30~R4	316百万円
		※ほか190事業		小計	11,678百万円
B 関連事業 (0事業)					
-	-	-	-	-	0百万円
C 効果促進事業 (0事業)					
-	-	-	-	-	0百万円
全体事業費 (A+B+C)					
					11,678百万円

※全事業については、別紙「事後評価書」の交付対象事業欄を参照。

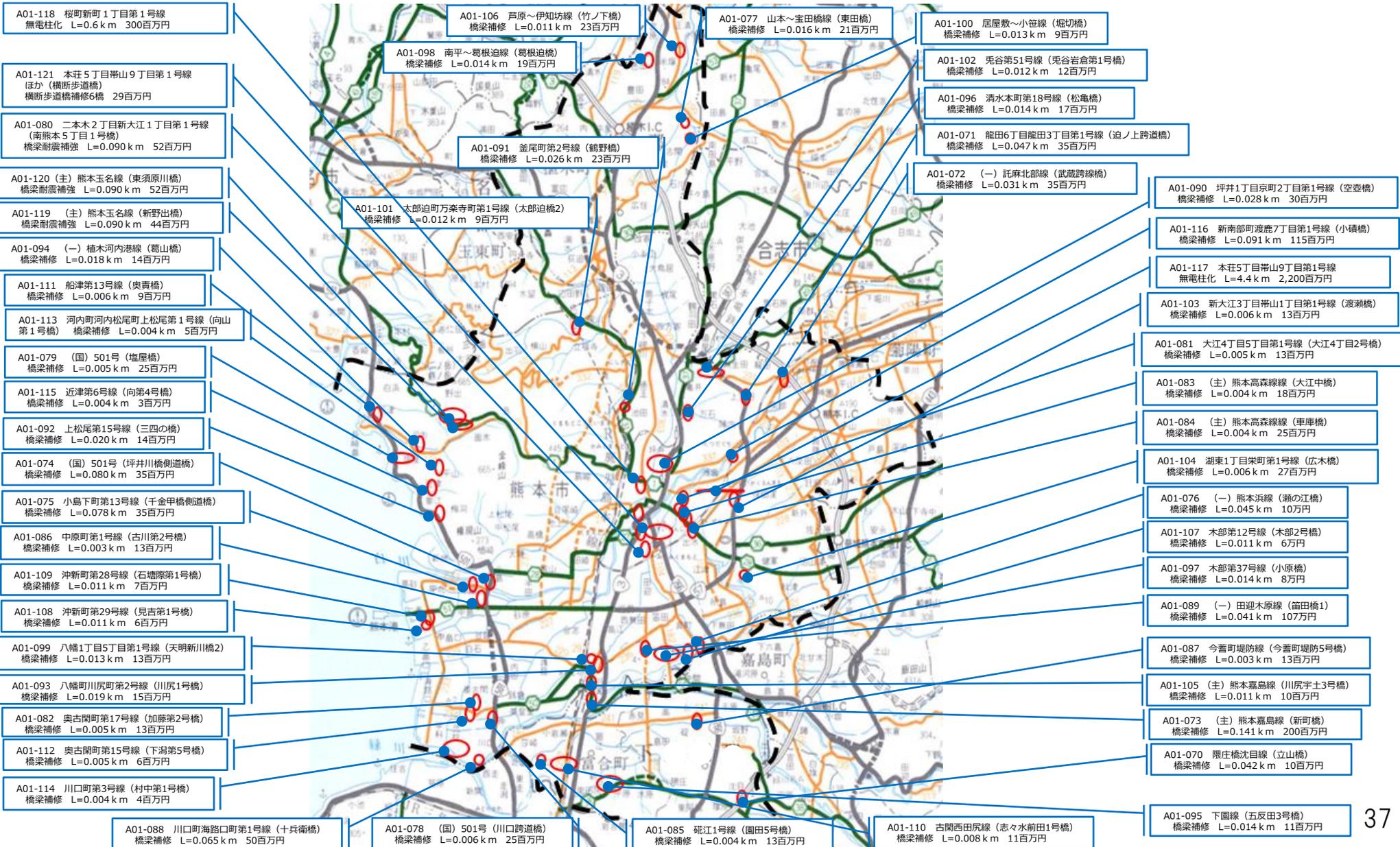
事業概要図 (道路事業)



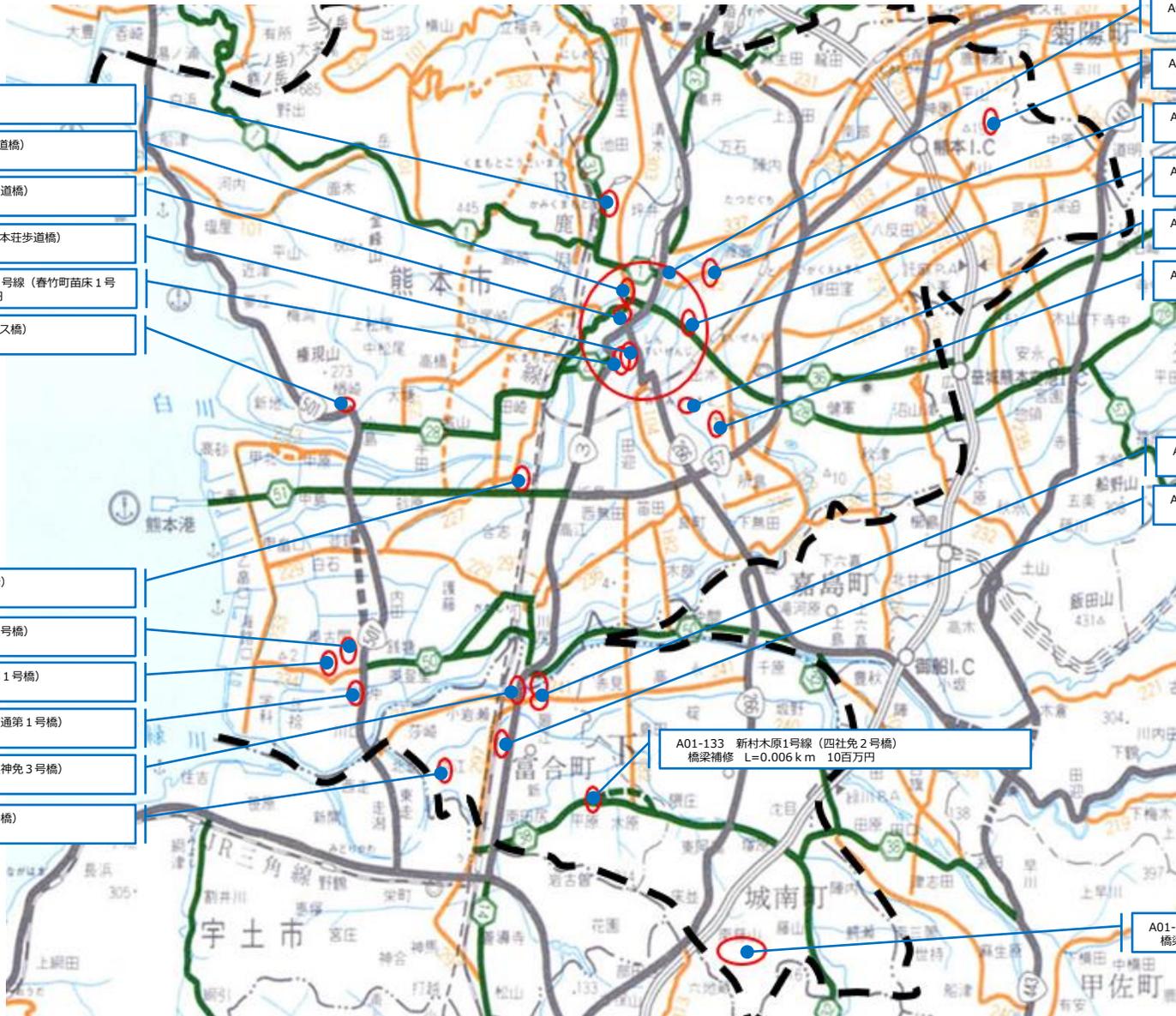
事業概要図 (道路事業)



事業概要図 (道路事業)



事業概要図 (道路事業)



- A01-128 (主) 熊本原坂線 (池田橋)
橋梁補修 L=0.005 km 39百万円
- A01-129 城東町上林町第1号線 (城東歩道橋)
歩道橋補修 L=0.043 km 100百万円
- A01-143 (主) 熊本高森線 (銀座通り歩道橋)
歩道橋補修 L=0.066 km 100百万円
- A01-130 本荘5丁目帯山9丁目第1号線 (本荘歩道橋)
歩道橋補修 L=0.020 km 100百万円
- A01-137 二本木2丁目新大江1丁目第1号線 (春竹町苗床1号橋) 橋梁補修 L=0.002 km 10百万円
- A01-141 (国) 国道501号 (松尾ボックス橋)
橋梁補修 L=0.003 km 10百万円

- A01-142 (主) 熊本停車場線 (本山歩道橋外5橋)
歩道橋補修 L=0.022km 32百万円
- A01-138 小山町第4号線 (西上ノ前第1号橋)
橋梁補修 L=0.003 km 10百万円
- A01-135 大江1丁目第2号線 (大江鶴橋)
橋梁補修 L=0.011 km 10百万円
- A01-131 (主) 熊本高森線 (九品寺歩道橋)
歩道橋補修 L=0.135 km 100百万円
- A01-122 田迎第1号線 (通無田第4号線)
橋梁補修 L=0.004 km 9百万円
- A01-136 出水5丁目8丁目第2号線 (出水8丁目第2号橋)
橋梁補修 L=0.002 km 10百万円

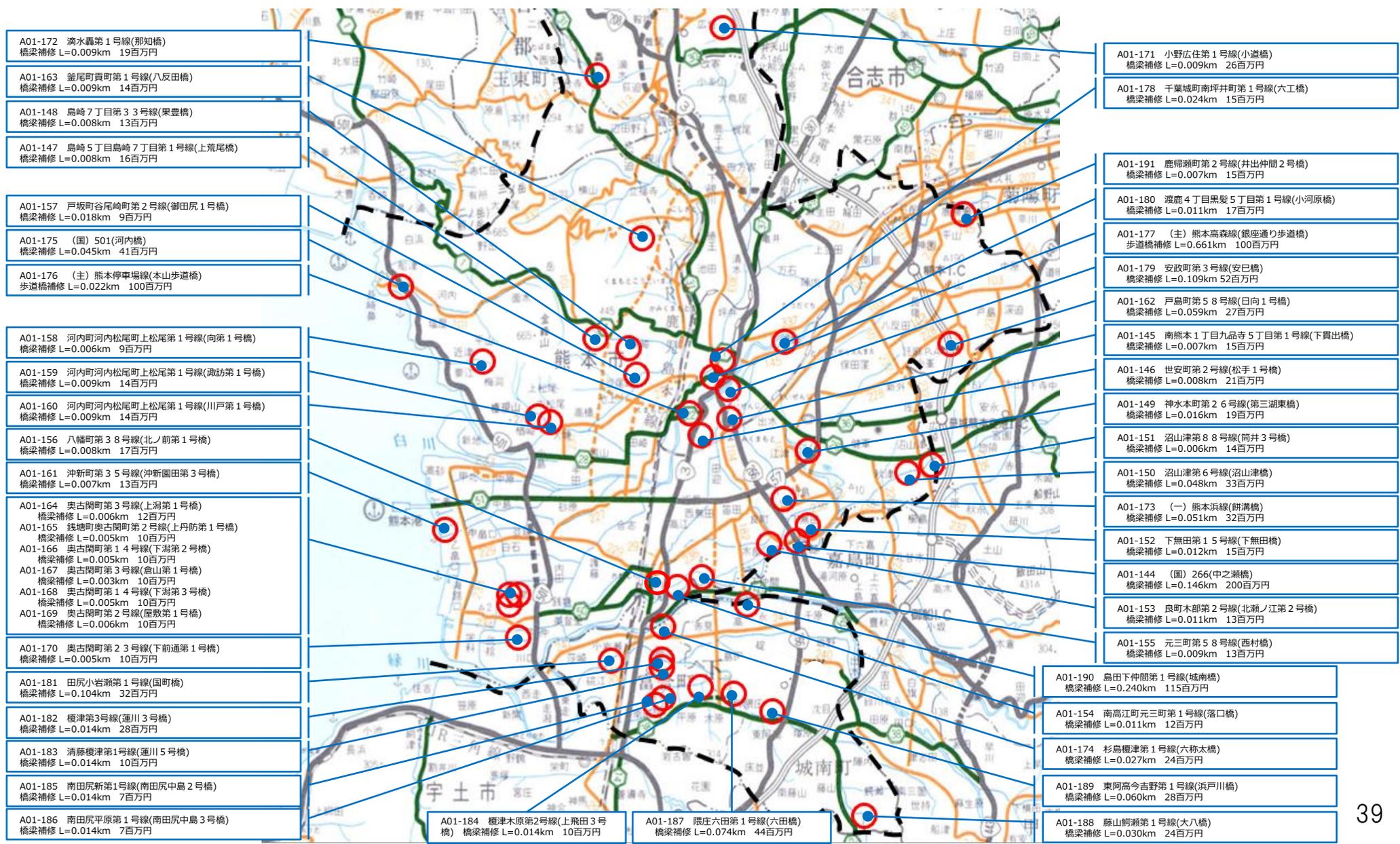
- A01-123 島町第7号線 (大明神第3号橋)
橋梁補修 L=0.003 km 8百万円
- A01-124 奥古閑町第1号線 (加藤第3号橋)
橋梁補修 L=0.005 km 10百万円
- A01-125 奥古閑町第1号線 (下丹防第1号橋)
橋梁補修 L=0.005 km 10百万円
- A01-126 銭塘町奥古閑町第1号線 (上前通第1号橋)
橋梁補修 L=0.003 km 8百万円
- A01-132 田尻小岩瀬第1号線 (小岩瀬天神免3号橋)
橋梁補修 L=0.005 km 10百万円
- A01-134 志々水尻江線 (志々水裏田1号橋)
橋梁補修 L=0.008 km 10百万円

- A01-139 廻江第6号線 (廻江裏田3号橋)
橋梁補修 L=0.003 km 10百万円
- A01-140 西田尻第1号線 (地方5号橋)
橋梁補修 L=0.003 km 10百万円

A01-133 新村木原1号線 (四社免2号橋)
橋梁補修 L=0.006 km 10百万円

A01-127 藤山第6号線 (柿田豊野1号橋)
橋梁補修 L=0.004 km 9百万円

事業概要図 (道路事業)



基幹事業：道路事業（（国）266号（田井島工区ほか））

事業内容

本路線は、熊本市地域防災計画において人口集中地区及び緊急輸送道路に位置付けられており、「熊本市無電柱化推進計画」に基づき無電柱化を推進していく路線である。本事業により無電柱化整備を進めていくことで、災害の防止、安全・円滑な交通の確保、良好な景観の形成等を図っていく。

■熊本市無電柱化推進計画（概要）（令和4年3月時点）

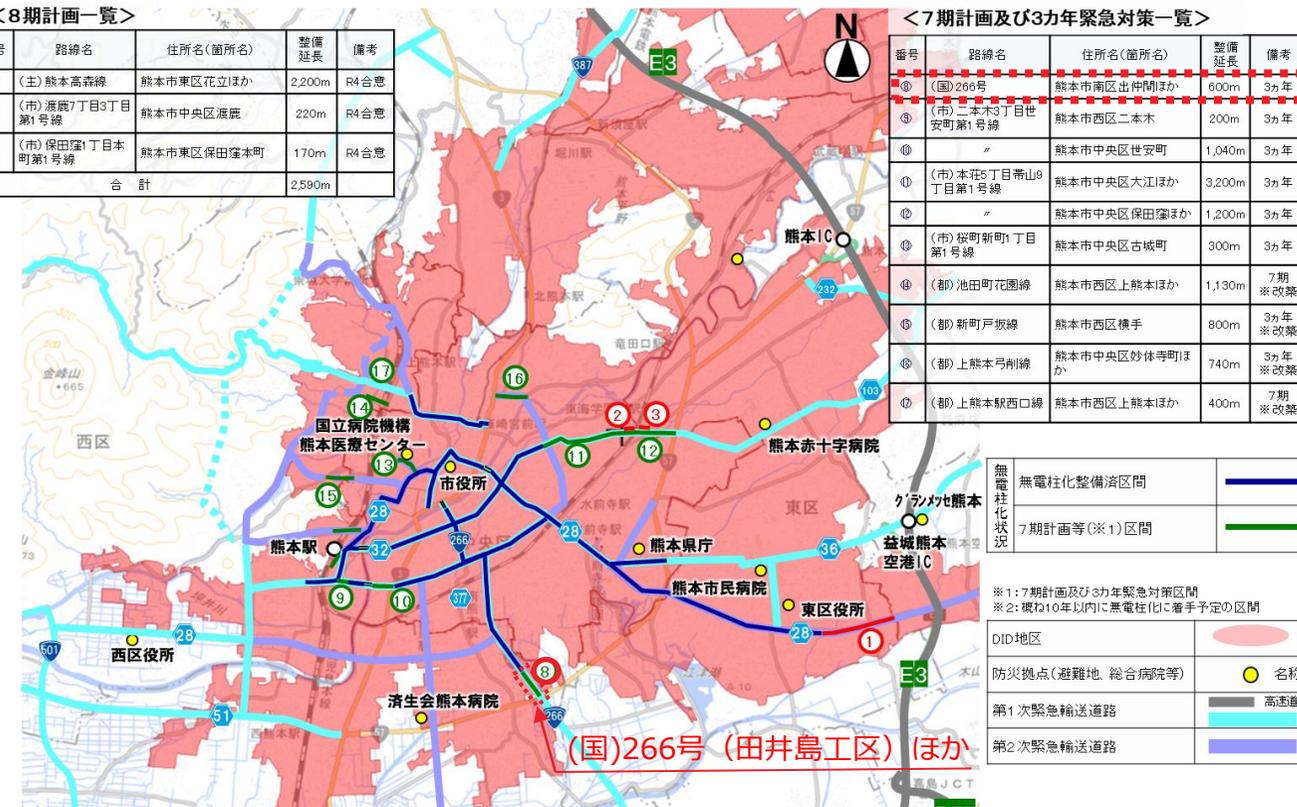
<8期計画一覧>

番号	路線名	住所名(箇所名)	整備延長	備考
①	(主)熊本高森線	熊本市東区花立ほか	2,200m	R4合意
②	(市)渡鹿7丁目3丁目第1号線	熊本市中央区渡鹿	220m	R4合意
③	(市)保田窪1丁目第1号線	熊本市東区保田窪本町	170m	R4合意
合計			2,590m	

■事業例：(国)266号（田井島工区）ほか

<7期計画及び3カ年緊急対策一覧>

番号	路線名	住所名(箇所名)	整備延長	備考
⑧	(国)266号	熊本市南区出仲間ほか	600m	3カ年
⑨	(市)二本木3丁目世安町第1号線	熊本市西区二本木	200m	3カ年
⑩	〃	熊本市中央区世安町	1,040m	3カ年
⑪	(市)本花5丁目帯山8丁目第1号線	熊本市中央区大江ほか	3,200m	3カ年
⑫	〃	熊本市中央区保田窪ほか	1,200m	3カ年
⑬	(市)桜町新町1丁目第1号線	熊本市中央区古城町	300m	3カ年
⑭	(都)池田町花園線	熊本市西区上熊本ほか	1,130m	7期 ※改築
⑮	(都)新町戸坂線	熊本市西区横手	800m	3カ年 ※改築
⑯	(都)上熊本弓削線	熊本市中央区妙体寺町ほか	740m	3カ年 ※改築
⑰	(都)上熊本駅西口線	熊本市西区上熊本ほか	400m	7期 ※改築



【3】災害に強く市民が安心できるまちづくり（防災・安全）（第2期）

◇ 本計画では、下記に記載している「国の重点施策」に応じた事業を実施。

【道路施設の適確な老朽化・地震対策】

- ・ **道路施設の適確な老朽化対策**
※橋梁、トンネル、大型の構造物（横断歩道橋、門型標識等）の点検・修繕・更新・耐震補強・撤去
- ・ **緊急輸送道路上または低コスト手法を活用した無電柱化**
※地域防災計画に位置付けられている道路における無電柱化対策事業
- ・ **高速道路・直轄国道をまたぐ跨道橋の耐震化**

◇ 事業内容と成果指標の考え方（国の重点施策対象）

事業案件番号	重点施策	事業内容	全体事業費 (百万円)	指標番号	主な事業	成果指標設定の考え方
3	無電柱化	無電柱化 (4事業)	3,238	⑤	(国) 266号(田井島工区ほか)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本計画は全191事業 ・ 「耐震補強」、「無電柱化」および「橋梁補修」等の事業実施により、災害に強いまちづくりと適確な老朽化対策を行っていく。 ・ H28熊本地震で幹線道路の被災による通行止めにて災害支援に大きな支障が生じたことから、災害時の支援経路に重点を置き「熊本市域の無電柱化計画路線における緊急輸送道路の無電柱化完了率を令和4年度末までに94%に向上させる」と「熊本市域の緊急輸送路における橋梁(L=15m以上)の耐震化完了率を令和4年度末までに78%に向上させる」の成果指標を設定。
	跨道橋の耐震化	耐震補強(跨道橋) (3事業)	188	-		
	老朽化対策	耐震補強(橋梁、横断歩道橋) (8事業)	830	⑥		
		補修(橋梁、横断歩道橋) (172事業)	4,982	-		
		老朽橋架替 (2事業)	1,390	-		
		道路施設点検 (2事業)	1,050	-		

※「老朽橋架替」と「道路施設点検」は、事業箇所が2箇所 fewer 少ないため指標検討の対象外とした。

◇ 本計画の定量的指標

事業案件番号	整備計画名称	計画期間	指標番号	定量的指標	当初現況値	最終目標値	実績値	判定	事業(計画)目標
3	災害に強く市民が安心できるまちづくり(防災・安全)(第2期)	平成30年度～令和4年度	⑤	熊本市域の無電柱化計画路線における緊急輸送道路の無電柱化完了率を令和4年度末までに94%に向上させる	89%	94%	92%	未達成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害に強く、安心して快適な都市生活を営むため、道路整備と共に既存ストックの効率的で適切な維持管理を図る。 ・ 災害に強いまちづくりと快適な歩行空間の創出のため、電線共同溝の整備を図る。
			⑥	熊本市域の緊急輸送路における橋梁(L=15m以上)の耐震化完了率を令和4年度末までに78%に向上させる	57%	78%	64%	未達成	

2 事業の効果の発現状況

事業の効果の発現状況

基幹事業

道路事業（国）266号（田井島工区ほか）

無電柱化整備を実施することで、「災害時の電柱倒壊による人的被害の防止」、「緊急輸送道路の閉塞による復旧や人命救助への遅れ」、「電線等を含む情報通信回線の被害によるインフラ復旧の遅れ」等のリスクを回避し、災害に強いまちづくりに寄与している。

■ 電柱による被害事例

【令和元年9月台風第15号千葉県館山市
（県道：館山富浦線）】



R6無電柱化ブロック別講習会資料より引用

【平成30年9月台風第21号大阪府泉南市
（市道：樽井大苗代新家線）】



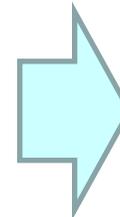
R6無電柱化ブロック別講習会資料より引用

■ 無電柱化整備による効果



整備前

- ・ 人的被害リスク
- ・ 緊急輸送道路の閉塞リスク
- ・ 情報通信回線の被害リスク



整備後

無電柱化により
災害時の各種リスクを回避

3 評価指標の最終目標値の達成状況

評価指標の最終目標値の達成状況

計画の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強く、安心して快適な都市生活を営むため、道路整備と共に既存ストックの効率的で適切な維持管理を図る。 ・災害に強いまちづくりと快適な歩行空間の創出のため、電線共同溝の整備を図る。 			
計画の成果指標 (定量的指標)	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			達成状況 (結果) (R4末)
		当初現況値 (H29末)	中間目標値 (R2末)	最終目標値 (R4末)	
熊本市域の緊急輸送路における橋梁(L=15m以上)の耐震化完了率を令和4年度末までに78%に向上させる。	熊本市域の緊急輸送路における橋梁(L=15m以上)の耐震化完了率。 ($\Sigma(\text{緊急輸送路}(L=15\text{m以上})\text{の橋梁数のうち耐震対策完了橋梁数}) / \Sigma(\text{緊急輸送路}(L=15\text{m以上})\text{の橋梁数}) \times 100$)	57% 24/42橋	69%	78% 33/42橋	未達成 64% 27/42橋
熊本市域の無電柱化計画路線における緊急輸送道路の無電柱化完了率を令和4年度末までに94%に向上させる。	熊本市域の無電柱化計画路線における緊急輸送道路の無電柱化率。 (無電柱化計画路線における緊急輸送路の無電柱化整備完了延長 / 無電柱化計画路線における緊急輸送路の無電柱化整備計画延長 $\times 100$)	89% 14.45/16.12km	92%	94% 15.16/16.12km	未達成 92% 14.97/16.12km

4 対応方針（案）

市の対応方針

<p>今後の方針</p>	<p>本計画（第2期）としては計画完了するが、未完了事業については、令和5年から新たに着手している他の関連する計画等において引き継いでおり、引き続き道路整備等を行い、事業推進する取り組みを継続していく。</p>
<p>今後の事後評価の必要性</p>	<p>本計画の未完了事業については、令和5年から新たに着手している他の関連する計画等の完了後にも事後評価を行う予定であるため、改めて本計画に対する事後評価（フォローアップ）は行わない。</p>
<p>改善措置の必要性</p>	<p>指標「熊本市域の無電柱化計画路線における緊急輸送道路の無電柱化完了率を令和4年度末までに94%に向上させる」、「熊本市域の緊急輸送路における橋梁（L=15m以上）の耐震化完了率を令和4年度末までに78%に向上させる」については、目標値に届いていないが、各事業単位では整備効果を発現しており、事業については今後、他の関連する計画等において継続して事業推進していくことから改善措置の必要性はないと考える。</p>
<p>同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p>	<p>本計画については、計画完了していることから見直しの必要性はない。未完了事業については、他の関連する計画等において事業推進していくため、他計画等にて見直しを行う。</p>

令和6年度（2024年度） 公共事業評価／評価資料

評価の種類	事後評価
事業（計画）名	社会資本総合整備計画 ひとにやさしい道路空間の創出（防災・安全） （第2期）
事業（計画）期間	平成30年度～令和4年度（5年間）
担当課	都市建設局 土木部 道路計画課

1 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況

事業（計画）の概要

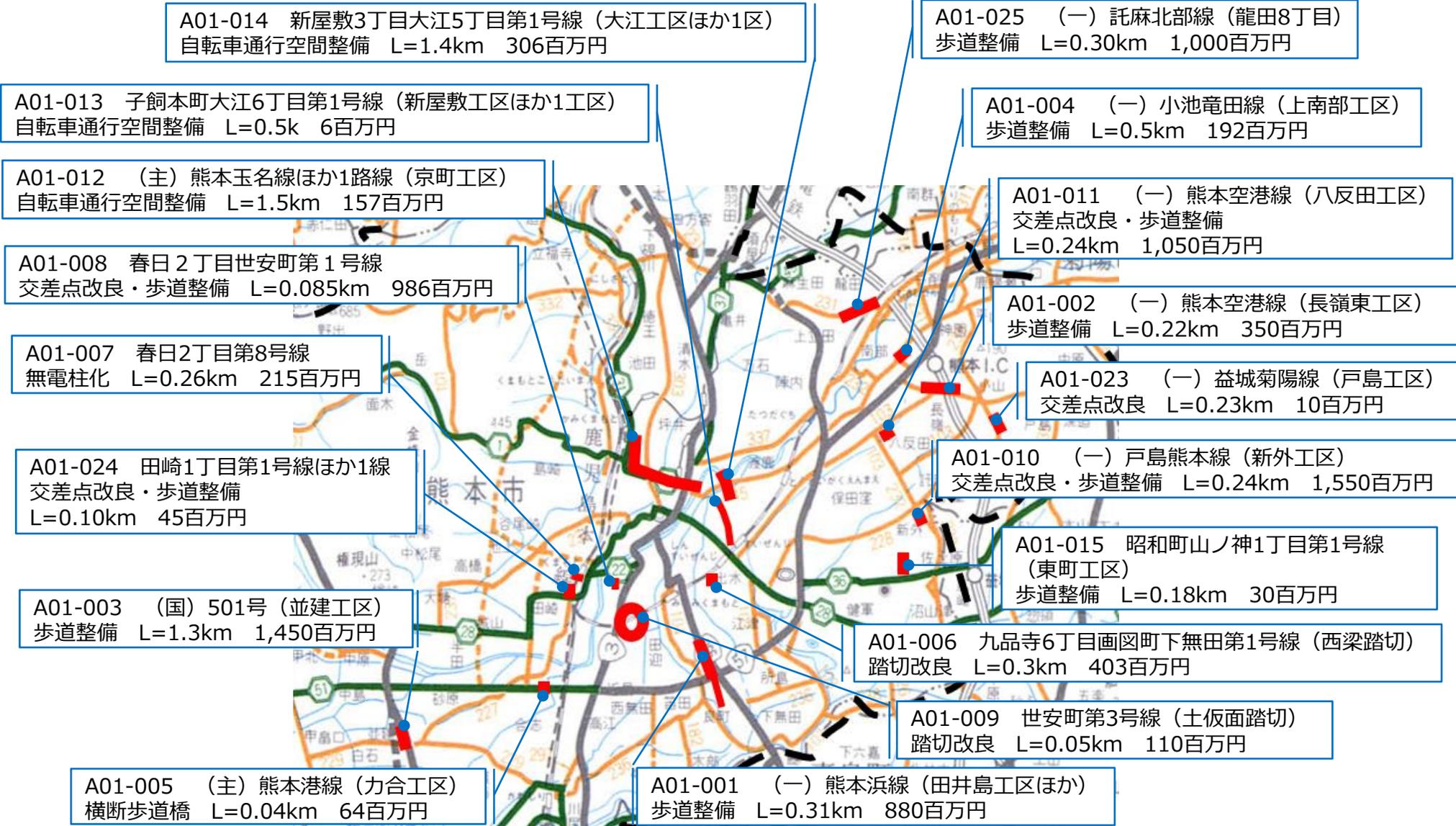
事業（計画）の名称	社会資本総合整備計画 ひとにやさしい道路空間の創出（防災・安全）（第2期）	
事業（計画）期間	平成30年度～令和4年度（5年間）	
事業（計画）目標	・ひとにやさしい道路空間の創出のため、歩道の整備やバリアフリー化を図る。	
概要	A 基幹事業 （一）熊本浜線（田井島工区ほか） 歩道整備 L = 0.31km 880百万円 ほか58事業	
事業費	26,441百万円	
経緯	H15 道路整備プログラムの策定 H24 道路整備プログラムの見直し（政令指定都市移行） H25 整備計画「ひとにやさしい道路空間の創出（防災・安全）（第1期）」事業着手 H30 整備計画「ひとにやさしい道路空間の創出（防災・安全）（第2期）」事業着手 R1 道路整備プログラムの見直し	
定量的指標	平成26年度から平成28年度に実施した熊本市通学路合同点検の要対策箇所の対策着手率を令和4年度末までに100%に向上させる。	H29年度：69%⇒R4年度：100%
	熊本市域における交通事故死傷者数を令和4年度末までに5%減少させる。	H29年度：3,903人⇒R4年度：3,700人
	熊本駅周辺整備・連立関連事業による駅周辺の通行量を18%増加させる。	H29年度：46,248人⇒R4年度：54,748人

交付対象事業

事業名	事業種別	事業箇所	事業内容	実施期間	事業費
A 基幹事業 (59事業)					
① 道路事業	道路	(一) 熊本浜線 (田井島工区ほか)	歩道整備 L=0.31km	H30~R4	880百万円
		※ほか50事業		小計	11,383百万円
② 道路事業	街路	(都) 新町戸坂線	バイパス整備 L=0.79km	H30~R4	1,563百万円
		※ほか7事業		小計	15,058百万円
B 関連事業 (0事業)					
-	-	-	-	-	0百万円
C 効果促進事業 (0事業)					
-	-	-	-	-	0百万円
全体事業費 (A+B+C)					
					26,441百万円

※全事業については、別紙「事後評価書」の交付対象事業欄を参照。

事業概要図 (道路事業)



事業概要図 (道路事業)

A01-018 (都) 花園池亀線ほか1線
現道拡幅 L=1.17km 89百万円

A01-019 (都) 池田町花園線ほか1線
現道拡幅 L=0.75km 920百万円

A01-045 (都) 池田町花園線ほか2線
バイパス整備 L=0.75km 3,322百万円

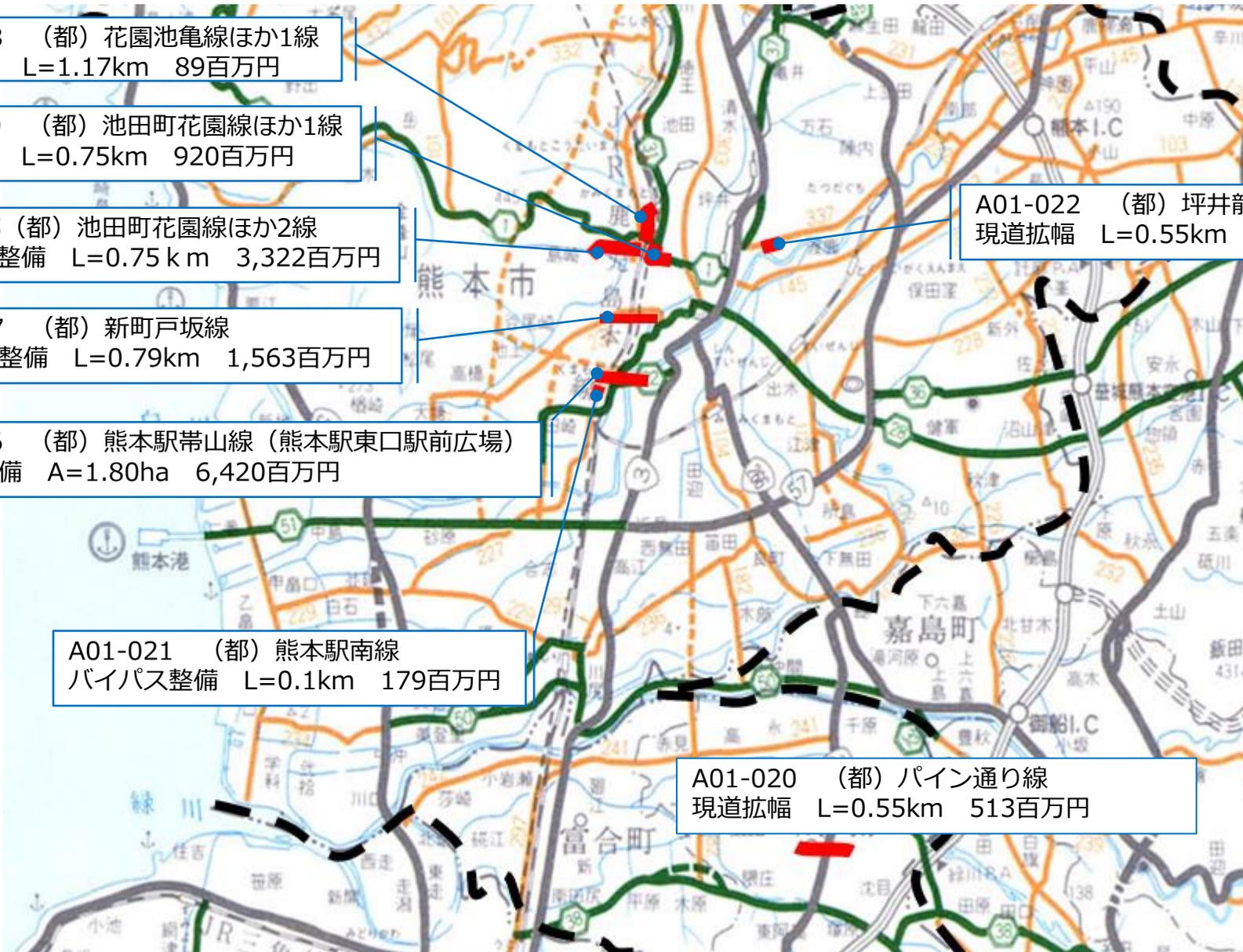
A01-017 (都) 新町戸坂線
バイパス整備 L=0.79km 1,563百万円

A01-016 (都) 熊本駅帯山線 (熊本駅東口駅前広場)
結節点整備 A=1.80ha 6,420百万円

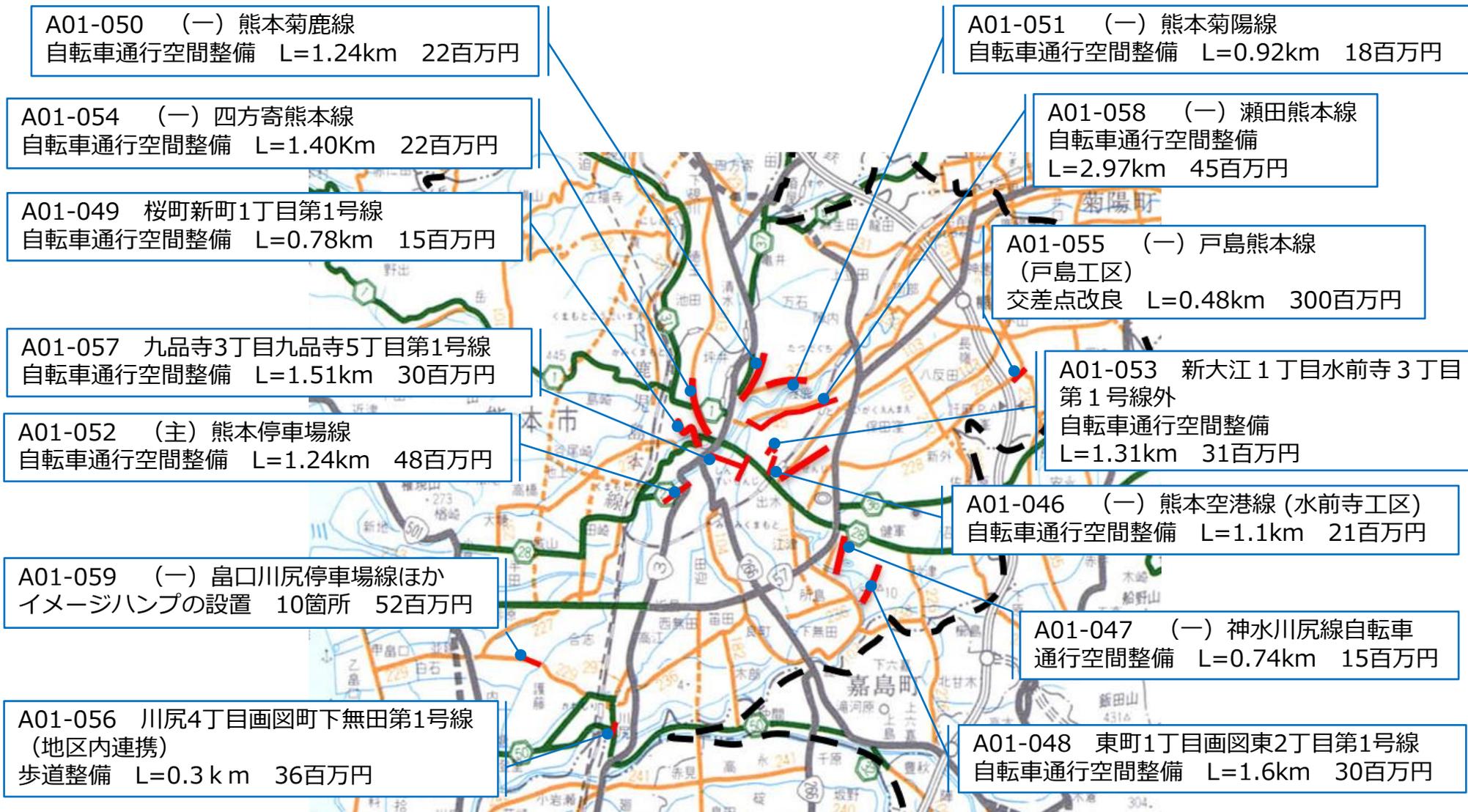
A01-021 (都) 熊本駅南線
バイパス整備 L=0.1km 179百万円

A01-022 (都) 坪井龍田陣内線
現道拡幅 L=0.55km 2,052百万円

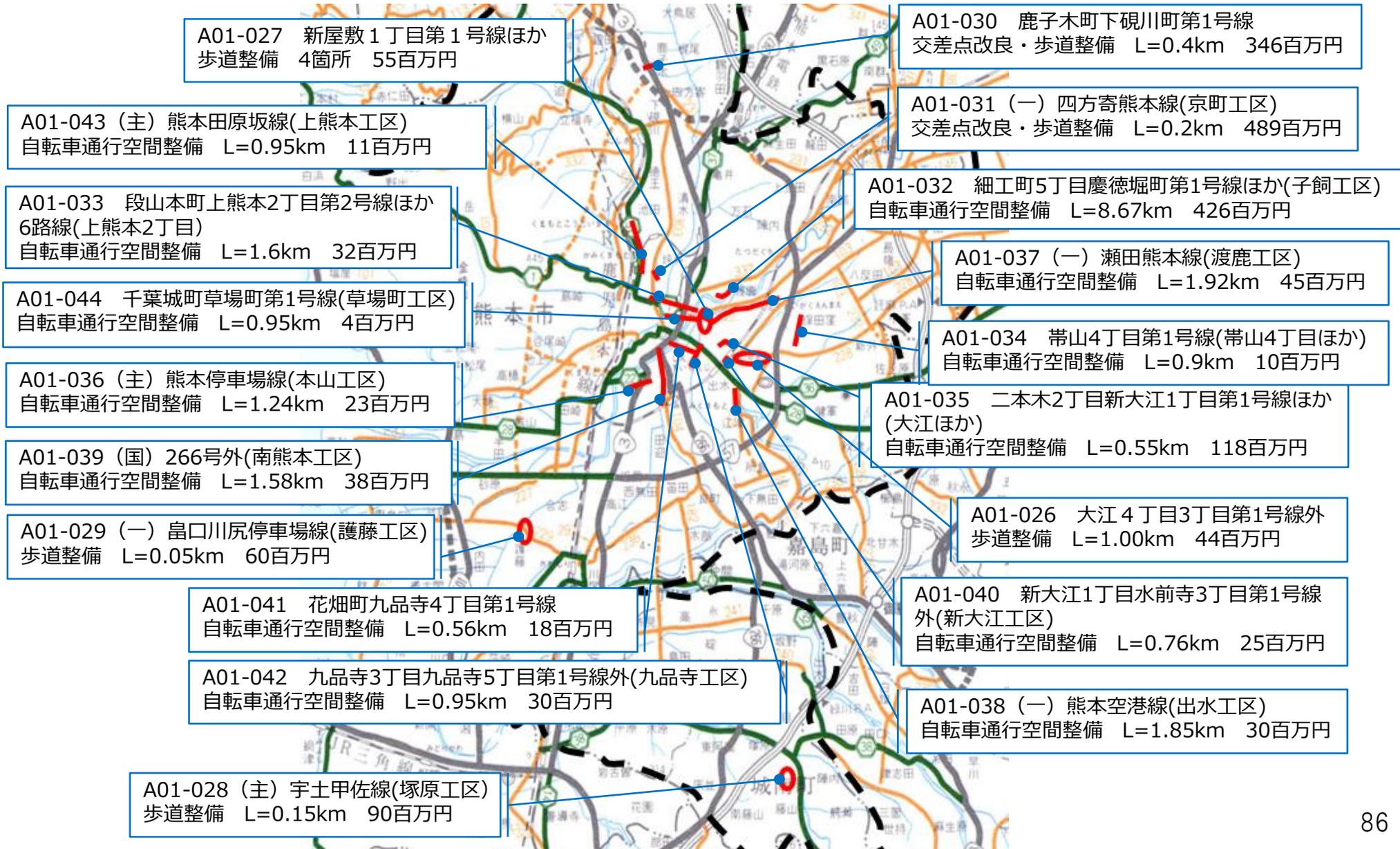
A01-020 (都) パイン通り線
現道拡幅 L=0.55km 513百万円



事業概要図 (道路事業)



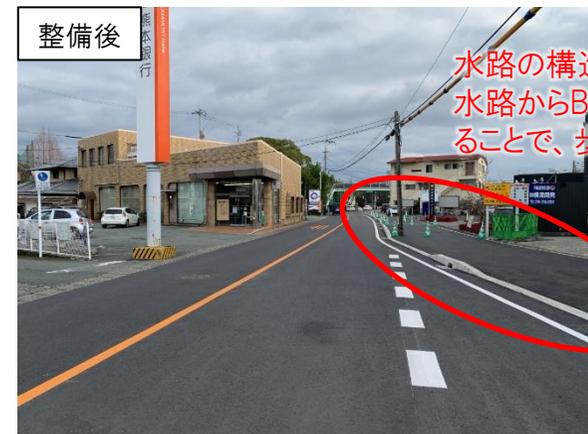
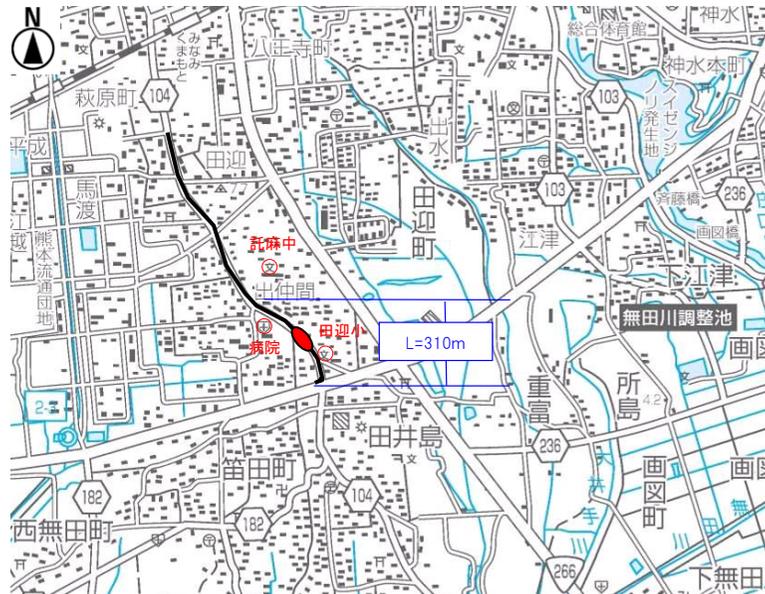
事業概要図 (道路事業)



基幹事業：道路事業（（一）熊本浜線（田井島工区ほか））

事業内容

本路線は、歩行者・自転車が車道部を通行する混合通行となり、慢性的な交通渋滞及び交通事故発生の要因となっており、熊本市通学路交通安全プログラムによる合同点検の指摘箇所ともなっている。このことから歩道の整備を行うことで、円滑な交通の確保と交通事故発生の要因を解消した。



水路の構造を三方張り水路からBOXに変更することで、歩道を整備

【4】ひとにやさしい道路空間の創出（防災・安全）（第2期）

◇ 本計画では、下記に記載している「国の重点施策」に応じた事業を実施。

【通学路等の生活空間における交通安全対策】

- ・ 歩行空間の確保等の**通学路**における交通安全対策
※「通学路交通安全プログラム」に位置付けられた通学路の交通安全対策事業
- ・ 地方版自転車活用推進計画に基づく**自転車通行空間整備**
- ・ 踏切道の拡幅等の**踏切**における事故対策
- ・ **鉄道**との結節点における自由通路等の**歩行空間のユニバーサルデザイン化**

◇ 事業内容と成果指標の考え方（国の重点施策対象）

事業案件番号	重点施策	事業内容	全体事業費 (百万円)	指標番号	主な事業	成果指標設定の考え方
4	自転車	自転車通行空間整備 (27事業)	1,576	⑨、⑩	(一) 熊本浜線（田井島工区ほか）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本計画は全59事業 ・ 「自転車通行空間整備」や「歩道整備・交差点改良」、「現道拡幅・バイパス整備」等の事業実施により、通学路や自転車通行空間の安全性確保に寄与することから、「平成26年度から平成28年度に実施した熊本市通学路合同点検の要対策箇所対策着手率を令和4年度末までに100%に向上させる」と「熊本市域における交通事故死傷者数を令和4年度末までに5%減少させる」の成果指標を設定。 ・ また本計画で、熊本駅東口駅前広場の整備を実施し、歩行空間のユニバーサルデザイン化を図っており、「熊本駅周辺整備・連立関連事業による駅周辺の通行量を18%増加させる」についても成果指標として設定。
	通学路	歩道整備、交差点改良等 (22事業)	9,294	④、⑨、⑩		
		現道拡幅、バイパス整備 (7事業)	8,638	④、⑩		
	鉄道	結節点整備 (1事業)	6,420	④		
	踏切	踏切改良 (2事業)	513	⑩		

◇ 本計画の定量的指標

事業案件番号	整備計画名称	計画期間	指標番号	定量的指標	当初現況値	最終目標値	実績値	判定	事業（計画）目標
4	ひとにやさしい道路空間の創出（防災・安全）（第2期）	平成30年度～令和4年度	⑨	平成26年度から平成28年度に実施した熊本市通学路合同点検の要対策箇所対策着手率を令和4年度末までに100%に向上させる	69%	100%	100%	達成	ひとにやさしい道路空間の創出のため、歩道の整備やバリアフリー化を図る。
			⑩	熊本市域における交通事故死傷者数を令和4年度末までに5%減少させる	3,903人	3,700人	1,973人	達成	
			④	熊本駅周辺整備・連立関連事業による駅周辺の通行量を18%増加させる	46,248人	54,748人	70,560人	達成	

2 事業の効果の発現状況

事業の効果の発現状況

基幹事業
道路事業（（一）熊本浜線（田井島工区ほか））

本路線は田迎小学校の通学路に指定されているため、歩道の整備を行い、歩行者の安全性を確保した。また、歩行者が歩道を通ることにより、歩行者と車が分離され、安全で円滑な道路交通の確保及び交通事故発生要因の解消に寄与しており、「人と車両の両者」にとってやさしい道路空間を創出することができた。

■安全で円滑な道路交通の確保

以前は歩行者が車道部を通行し、交通渋滞及び交通事故の発生要因となっていたが、今回の整備区間で歩行者が歩道を通り可能になり、解消された。



事故発生状況（整備前後）

（単位：件）

事故形態	2021年	2023年
人对車両	1	1
車両対車両	8	4
その他	1	0
合計	10	5

→
 半減



3 評価指標の最終目標値の達成状況

評価指標の最終目標値の達成状況

計画の目標		ひとにやさしい道路空間の創出のため、歩道の整備やバリアフリー化を図る。			
計画の成果指標 (定量的指標)	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			達成状況 (結果) (R4末)
		当初現況値 (H29末)	中間目標値 (R2末)	最終目標値 (R4末)	
平成26年度から平成28年度に実施した熊本市通学路合同点検の要対策箇所対策着手率を令和4年度末までに100%に向上させる。	通学路合同点検で対策が必要とされた箇所の着手率。 ($\Sigma(\text{通学路における要安全対策着手箇所数}) / \Sigma(\text{通学路における要安全対策箇所数}) \times 100$)	69% 185/268箇所	90%	100% 268/268箇所	達成 100% 268/268箇所
熊本市域における交通事故死傷者数を令和4年度末までに5%減少させる。	年間交通事故死傷者数を調査する。	3,903人	3,800人	3,700人	達成 1,973人 49.5%減少
熊本駅周辺整備・連立関連事業による駅周辺の通行量を18%増加させる。	駅周辺の歩行者等の通行量を計測する。	46,248人	50,748人	54,748人	達成 70,560人 52.5%増加

4 対応方針（案）

市の対応方針

<p>今後の方針</p>	<p>本計画（第2期）の成果を踏まえ、令和5年から新たに着手している社会資本総合整備計画「ひとにやさしい道路空間の創出（防災・安全）（第3期）」に沿って、引き続き道路整備等を行うことで、安心安全な道路空間の創出のため、歩道の整備や自転車通行空間の整備など交通安全対策を推進する取り組みを継続していく。</p>
<p>今後の事後評価の必要性</p>	<p>令和5年度より策定・開始済みの「ひとにやさしい道路空間の創出（防災・安全）（第3期）」の完了後にも事後評価を行う予定であるため、改めて本計画に対する事後評価（フォローアップ）は行わない。</p>
<p>改善措置の必要性</p>	<p>当初設定した指標についてはすべて達成している。今後も第3期計画において、引き続き事業推進していくことから改善措置の必要性はないと考える。</p>
<p>同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p>	<p>定量的指標については、見直しのうえ、新たな同種事業の計画に活かしていく。</p>

令和6年度（2024年度） 公共事業評価／評価資料

評価の種類	事後評価
事業（計画）名	社会資本総合整備計画 安全で快適な道路環境の整備（防災・安全） （第2期）
事業（計画）期間	平成30年度～令和4年度（5年間）
担当課	都市建設局 土木部 道路計画課

1 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況

事業（計画）の概要

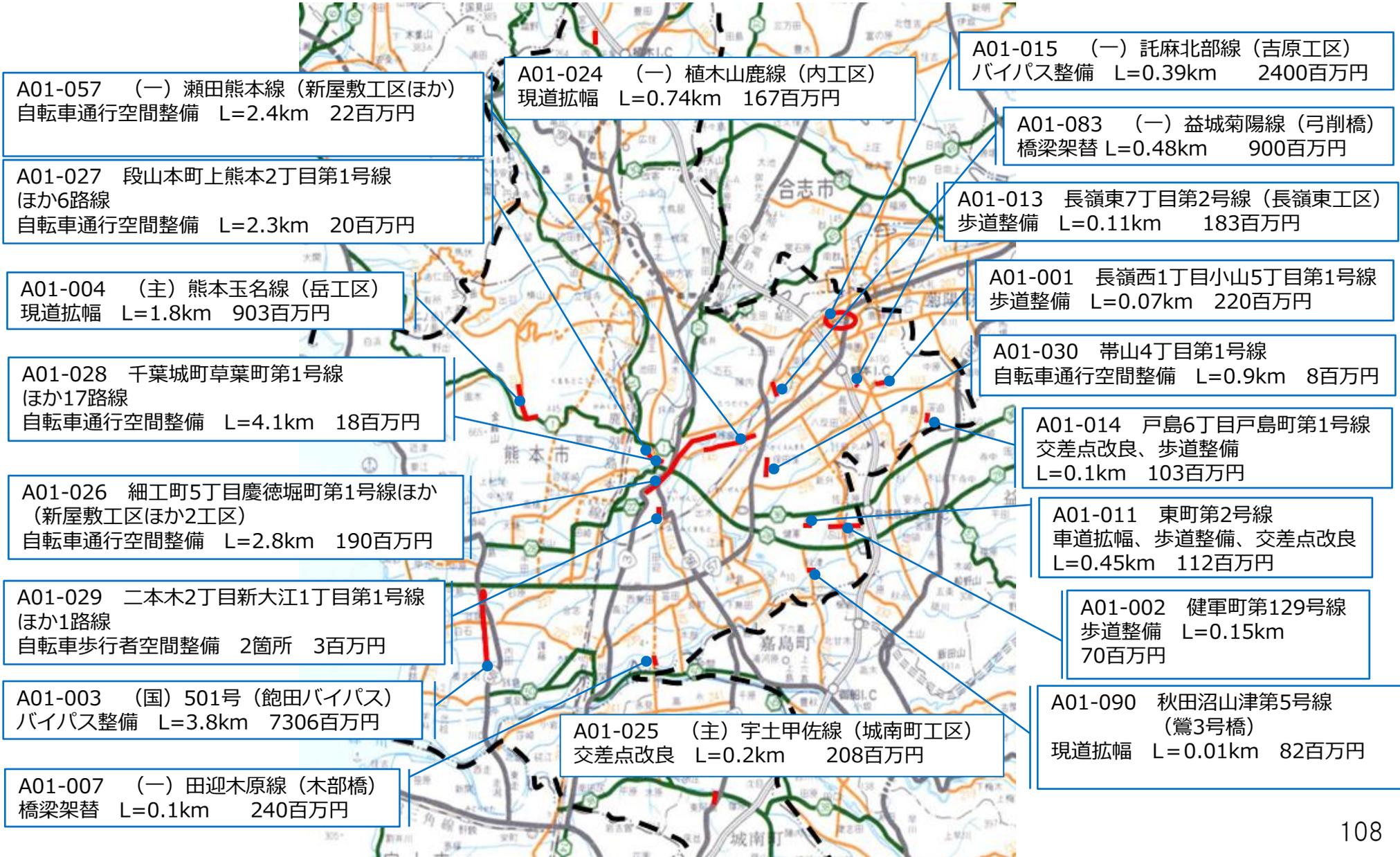
事業（計画）の名称	社会資本総合整備計画 安全で快適な道路環境の整備（防災・安全）（第2期）	
事業（計画）期間	平成30年度～令和4年度（5年間）	
事業（計画）目標	<ul style="list-style-type: none"> 安全で安心して暮らせる交通社会の実現に向け、適切かつ効果的な道路整備を図る。 災害から市民の生命財産を守り、大規模災害発生時の被害を最小限にとどめるため、防災・震災対策を着実に実施し、市民が安全で安心できる避難体制の構築を進める。 	
概要	A 基幹事業 長嶺東7丁目第2号線（長嶺東工区） 歩道整備 L = 0.11km 183百万円 ほか94事業	
事業費	23,367百万円	
経緯	H15 道路整備プログラムの策定 H24 道路整備プログラムの見直し（政令指定都市移行） H25 整備計画「安全で快適な道路環境の整備（防災・安全）（第1期）」事業着手 H30 整備計画「安全で快適な道路環境の整備（防災・安全）（第2期）」事業着手 R1 道路整備プログラムの見直し	
定量的指標	熊本市域における交通事故死傷者数を令和4年度末までに 5%減少させる。 H29年度：3,903人⇒R4年度：3,700人 熊本市域における法面の安全対策が必要な箇所の対策実施率を令和4年度末までに100%向上させる。 H29年度：0%⇒R4年度：100%	

交付対象事業

事業名	事業種別	事業箇所	事業内容	実施期間	事業費
A 基幹事業 (95事業)					
① 道路事業	道路	長嶺東7丁目第2号線 (長嶺東工区)	歩道整備 L=0.11km	H30~R4	183百万円
		※ほか94事業		小計	23,367百万円
B 関連事業 (0事業)					
-	-	-	-	-	0百万円
C 効果促進事業 (0事業)					
-	-	-	-	-	0百万円
全体事業費 (A+B+C)					
					23,367百万円

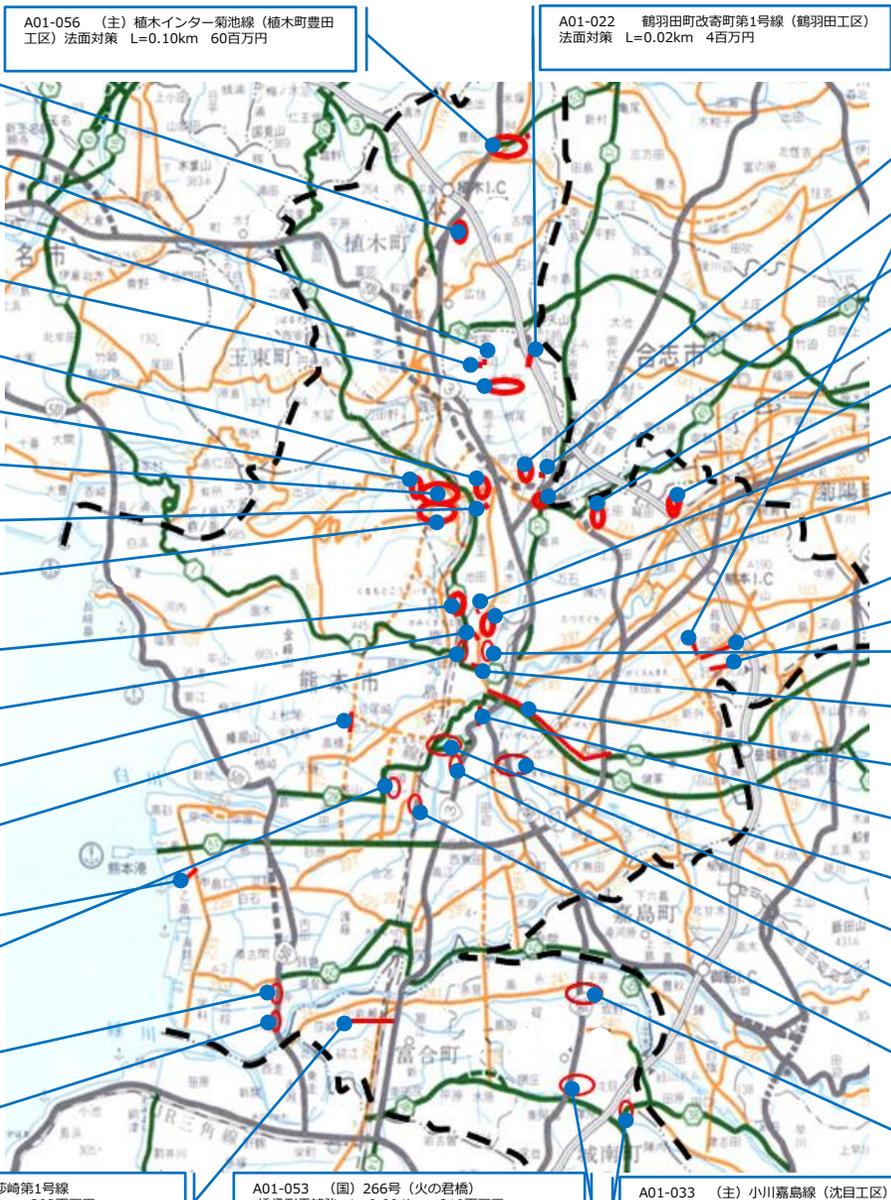
※全事業については、別紙「事後評価書」の交付対象事業欄を参照。

事業概要図 (道路事業)



事業概要図 (道路事業)

- A01-043 (主) 大牟田植木線 (植木町山本工区)
排水施設改良工 L=0.30km 70百万円
- A01-020 明徳町改寄町第1号線 (明徳工区)
法面対策 L=0.03km 4百万円
- A01-019 下硯川町第24号線 (下硯川工区)
法面対策 L=0.03km 4百万円
- A01-042 明徳町大鳥居町第1号線法面対策
L=0.12km 60百万円
- A01-036 下硯川町下硯川2丁目第1号線
法面対策 L=0.18km 60百万円
- A01-040 和泉町万寿寺町第1号線法面対策
L=0.30km 35百万円
- A01-037 貴町和泉町第1号線法面対策
L=0.09km 35百万円
- A01-018 池田2丁目第2号線 (池田工区)
法面対策 L=0.1km 28百万円
- A01-034 (一) 砂原四方寄線 (和泉工区)
法面対策 L=1.0km 230百万円
- A01-039 池亀町第4号線
法面対策 L=0.02km 12百万円
- A01-017 (国) 501号
法面対策 L=0.1km 55百万円
- A01-032 (主) 熊本玉名線 (永運橋)
橋梁耐震補強 L=0.022km 240百万円
- A01-008 池上町第1号線
舗装補修 L=0.89km 8百万円
- A01-006 沖新町第3号線
舗装補修 L=0.86km 8百万円
- A01-031 (主) 熊本高森線 (平成大橋)
橋梁耐震補強 L=0.061km 230百万円
- A01-050 (国) 501号 (上沖田橋)
橋梁耐震補強 L=0.043km 270百万円
- A01-048 (国) 501号 (平木高架橋)
橋梁耐震補強 L=0.092km 700百万円



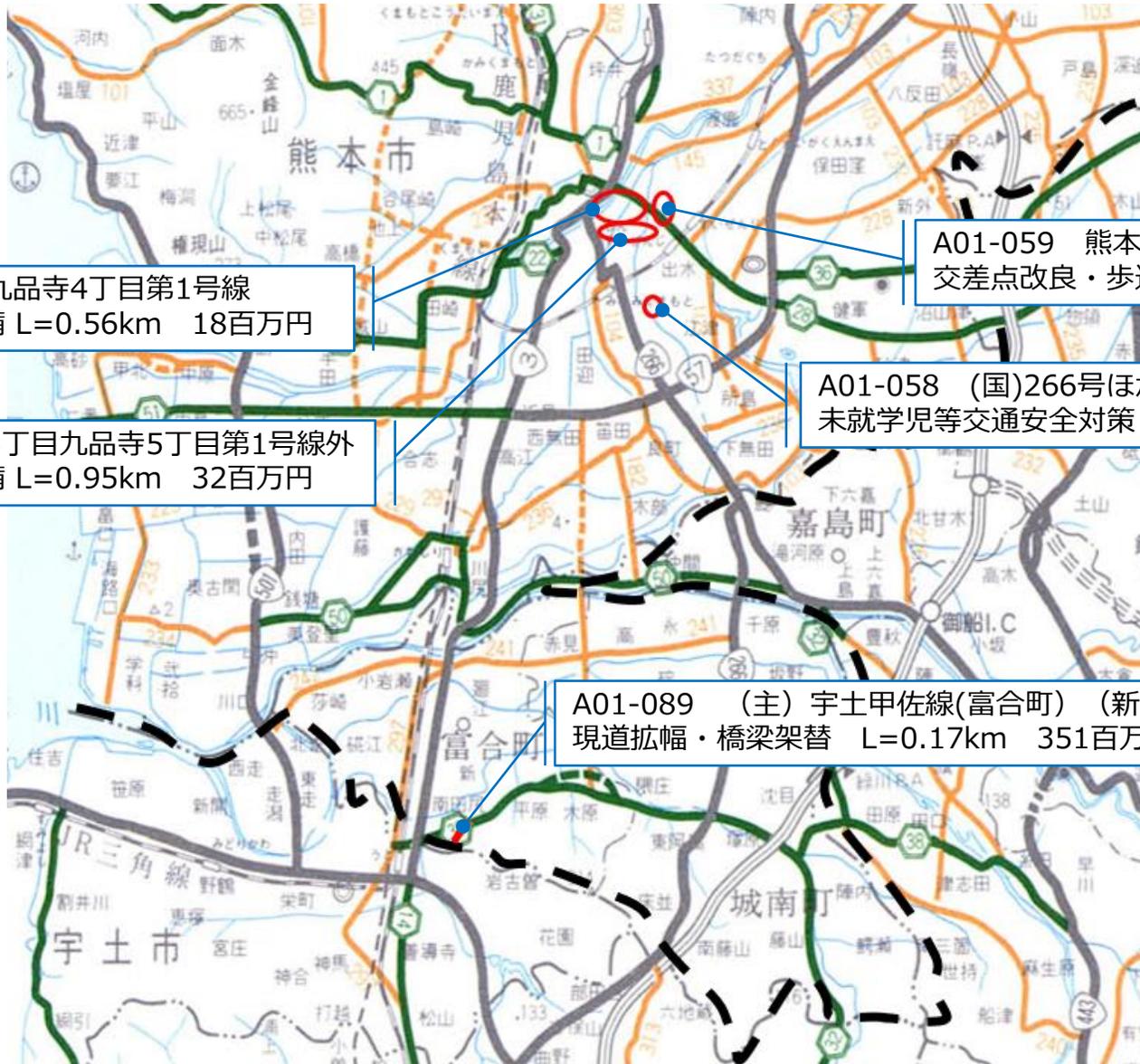
A01-009 志々水莎崎第1号線
舗装補修 L=1.45km 202百万円

A01-053 (国) 266号 (火の君橋)
橋梁耐震補強 L=0.094km 210百万円

A01-033 (主) 小川嘉島線 (沈目工区)
法面対策 L=0.05km 10百万円

- A01-010 (一) 小池竜田線 (八反田工区)
舗装補修 L=0.43km 39百万円
- A01-038 四方寄町鶴羽田2丁目第1号線
法面対策 L=0.15km 60百万円
- A01-021 明徳町小糸山町第1号線 (明徳工区)
法面対策 L=0.03km 3百万円
- A01-044 (国) 387号 (飛田工区)
排水施設改良工 L=0.30km 114百万円
- A01-047 (主) 熊本大津線 (八景水谷工区)
排水施設改良工 L=0.10km 50百万円
- A01-045 麻生田3丁目武蔵ヶ丘9丁目第1号線
排水施設改良工 L=0.40km 40百万円
- A01-023 池田2丁目1丁目第1号線 (池田工区)
法面対策 L=0.04km 2百万円
- A01-035 京町本丁坪井3丁目第1号線
法面対策 L=0.37km 125百万円
- A01-088 (一) 熊本空港線 (戸島西工区)
舗装修繕 L=0.26km 325百万円
- A01-087 (一) 戸島熊本線 (戸島西工区)
舗装修繕 L=0.44km 80百万円
- A01-046 壺川1丁目第7号線ほか3線
排水施設改良工 L=0.40km 45百万円
- A01-016 (主) 熊本玉名線
法面対策 L=0.06km 110百万円
- A01-055 (主) 熊本高森線ほか1線
LED化 1300灯 200百万円
- A01-005 辛島町河原町第1号線
舗装補修 L=0.5km 10百万円
- A01-052 (国) 266号 (八王寺跨線橋)
橋梁耐震補強 L=0.176km 770百万円
- A01-051 (主) 熊本停車場線 (白川橋)
橋梁耐震補強 L=0.142km 465百万円
- A01-049 二本木3丁目世安町第1号線 (新世安橋)
橋梁耐震補強 L=0.157km 450百万円
- A01-054 野中3丁目田迎5丁目第1号線 (新運台寺地下道)
LED化 132灯 27百万円
- A01-041 (国) 266号 (今吉野工区)
法面対策 L=0.40km 100百万円

事業概要図 (道路事業)



A01-060 花畑町九品寺4丁目第1号線
 自転車通行空間整備 L=0.56km 18百万円

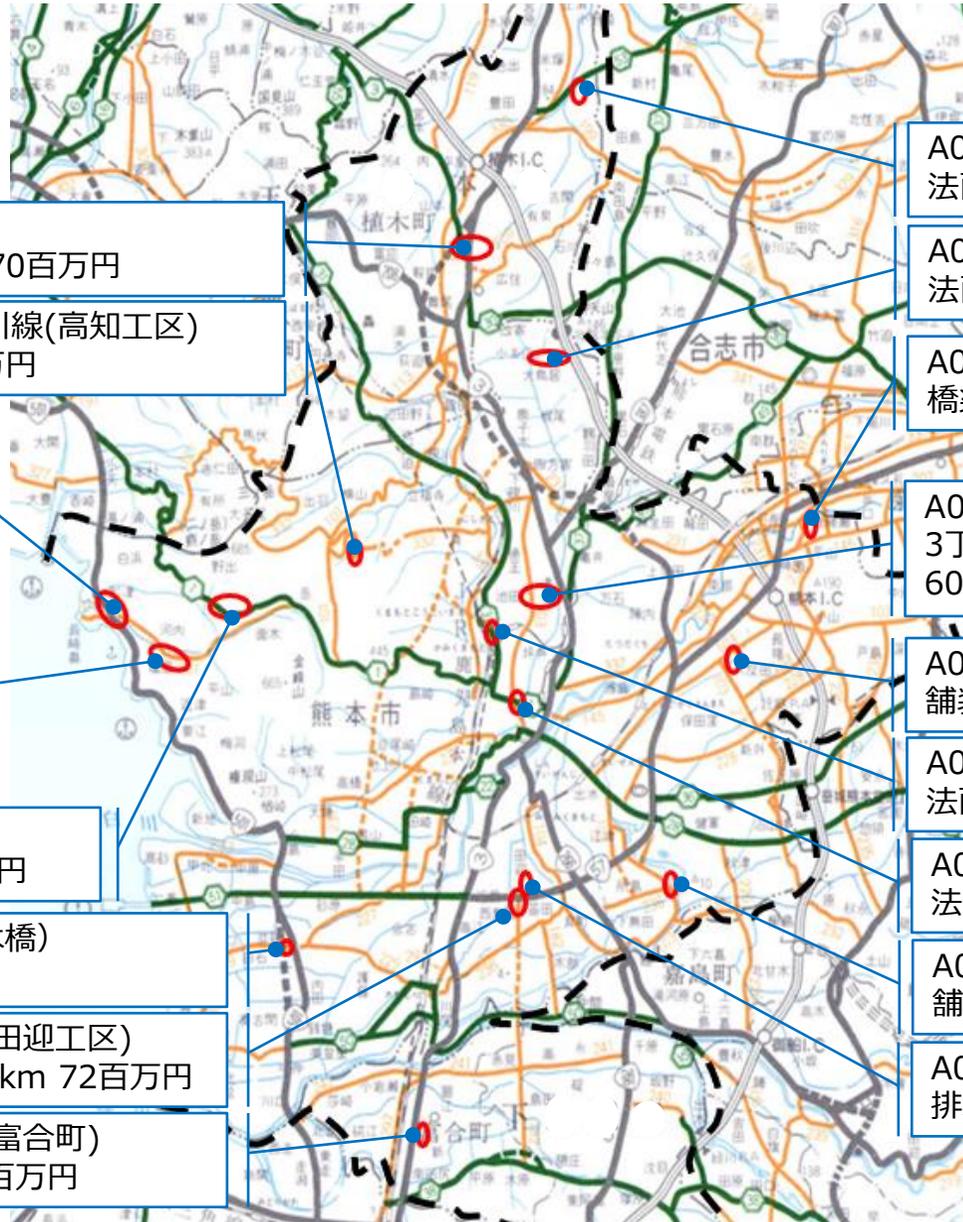
A01-061 九品寺3丁目九品寺5丁目第1号線外
 自転車通行空間整備 L=0.95km 32百万円

A01-059 熊本高森線外
 交差点改良・歩道整備 35箇所 54百万円

A01-058 (国)266号ほか
 未就学児等交通安全対策 L=26.2km 154百万円

A01-089 (主)宇土甲佐線(富含町) (新橋工区)
 現道拡幅・橋梁架替 L=0.17km 351百万円

事業概要図 (道路事業)



A01-069 大牟田植木線
排水施設対策 L=0.30km 70百万円

A01-080 (一) 小天下硯川線(高知工区)
法面对策 L=0.6km 30百万円

A01-012 (国) 501号
(船津工区)
法面对策 L=0.1km
50百万円

A01-070 (一) 植木河
内港線(河内工区)
現道拡幅 L=0.8km
924百万円

A01-062 熊本玉名線
橋梁耐震補強 1橋 100百万円

A01-085 (国) 501号(平木橋)
橋梁耐震補強 1橋 220百万円

A01-084 (一) 田迎木原線(田迎工区)
交差点改良,歩道整備 L=0.08km 72百万円

A01-086 (主) 宇土甲佐線(富合町)
歩道整備 L=0.86 km 846百万円

A01-066 植木インター菊池線
法面对策 L=0.10km 60百万円

A01-064 貢町和泉町第1号線
法面对策 L=1.00km 35百万円

A01-083 (一) 益城菊陽線(弓削橋)
橋梁架替 L=0.48km 900百万円

A01-067 (一) 四方寄熊本線(池田
3丁目工区) 排水施設対策 L=0.20km
60百万円

A01-081 (一) 小池竜田線(長嶺東工区)
舗装修繕 L=0.3km 50百万円

A01-065 池亀町第4号線
法面对策 L=0.02km 12百万円

A01-063 熊本玉名線
法面对策 L=0.03km 50百万円

A01-082 (一) 熊本空港線(画図工区)
舗装修繕 L=0.6km 100百万円

A01-068 流通団地第14号線
排水施設対策 L=0.10km 17百万円

事業概要図 (道路事業)



A01-091 梶尾町第88号線 (さかえ橋)
 橋梁耐震補強 L=0.041km 80百万円

A01-079 (主) 熊本玉名線(東須原川橋)
 橋梁耐震補強 1橋 60百万円

A01-092 弓削第149号線 (平ノ上橋)
 橋梁耐震補強 L=0.041km 80百万円

A01-072 (主) 熊本玉名線ほか
 歩道整備 100箇所 60百万円

A01-094 壺川1丁目津浦町第1号線 (壺川工区) 交差点改良 L=0.1km 77百万円

A01-095 (主) 熊本高森線 (通町筋地下道) 歩道整備 L=0.033km 150百万円

A01-093 (一) 戸島熊本線 (県営西戸島団地) 歩道整備 L=0.017km 25百万円

A01-074 (一) 小島新町線(池上工区)
 舗装修繕 L=0.8km 240百万円

A01-078 新大江1丁目水前寺3丁目第1号線外 自転車通行空間整備 L=0.76km 15百万円

A01-075 (主) 熊本停車場線
 自転車通行空間整備 L=1.24km 24百万円

A01-077 (国) 266外
 自転車通行空間整備 L=1.58Km 30百万円

A01-073 (国) 501号(無田口工区)
 舗装修繕 L=1.0km 150百万円

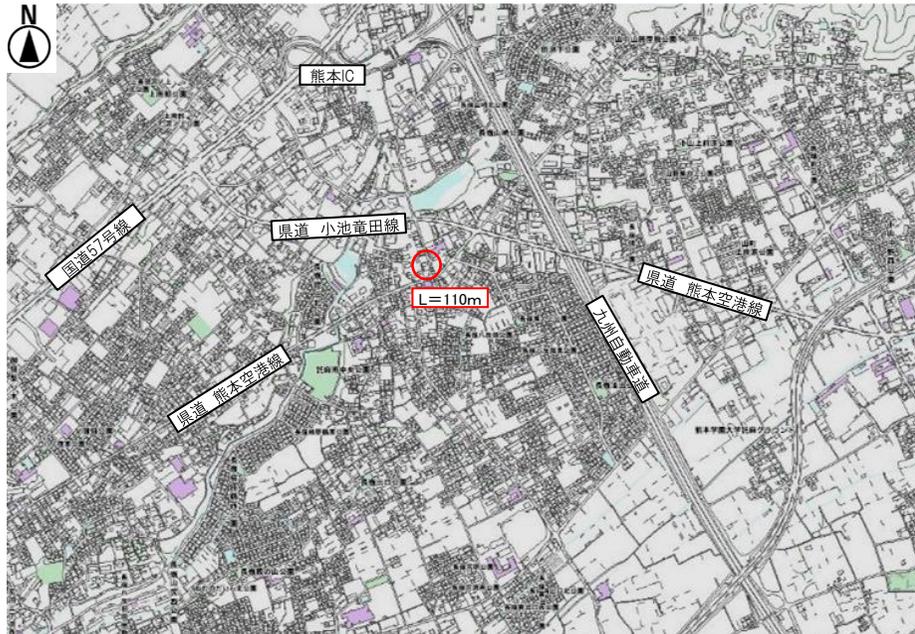
A01-076 (一) 熊本空港線
 自転車通行空間整備 L=0.71Km 16百万円

A01-071 (一) 田迎木原線 (御幸木部工区) 現道拡幅 L=0.1km 350百万円

基幹事業：道路事業（長嶺東7丁目第2号線（長嶺東工区））

事業内容

本路線は、近くに九州自動車道熊本IC・流通関係のターミナル・託麻まちづくりセンターが存在し、車両・歩行者ともに交通量が非常に多いが、道路幅員が十分でなく、非常に危険な状況である。そこで歩道の設置及び交差点の一部改良を行い、利用者の安全を確保した。



【5】安全で快適な道路環境の整備（防災・安全）（第2期）

◇本計画では、「国の重点施策でない」事業を実施。

【非重点事業】

- ・国の重点施策の対象とならない防災・減災対策で、法面の安全対策や歩道整備、舗装補修等を実施することで、「命と暮らしを守るインフラの再構築」又は「生活空間の安全確保」を図るための事業推進を目的とした計画である。

◇事業内容と成果指標の考え方

事業案件番号	施策	事業内容	全体事業費 (百万円)	事業実施期間	指標番号	主な事業	成果指標設定の考え方
5	命と暮らしを守るインフラの再構築及び生活空間の安全確保	法面对策 (25事業)	1,234	当初から設定 (H30~R4)	⑧	長嶺東7丁目第2号線 (長嶺東工区)	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画は全95事業 ・「法面对策」や「歩道整備・現道拡幅」、「舗装補修・修繕」等の事業実施により、生活空間の安全確保等に寄与することから、「熊本市域における法面の安全対策が必要な箇所の対策実施率を令和4年度末までに100%向上させる。向上」と「交通事故死傷者数の減少」の成果指標を設定。
		歩道整備、現道拡幅、交差点改良、バイパス整備 (20事業)	14,312	当初から設定 (H30~R4)	⑩		
		橋梁耐震補強 (13事業)	3,875	変更追加 (R2~R4)	—		
		橋梁架替等 (3事業)	1,491	R4以降完了	—		
		舗装補修・修繕、排水施設改良等 (19事業)	1,678	当初から設定 (H30~R4)	⑩		
		未就学児交通安全対策、自転車通行空間整備等 (15事業)	777	当初から設定 (H30~R4)	⑩		

※国の重点施策の要件変更に伴い本計画へ移行事業あり。(重点⇒非重点)

◇本計画の定量的指標

事業案件番号	整備計画名称	計画期間	指標番号	定量的指標	当初現況値	最終目標値	実績値	判定	事業(計画)目標
5	安全で快適な道路環境の整備(防災・安全)(第2期)	平成30年度～令和4年度	⑧	熊本市域における法面の安全対策が必要な箇所の対策実施率を令和4年度末までに100%向上させる	0%	100%	100%	達成	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心して暮らせる交通社会の実現に向け、適切かつ効果的な道路整備を図る。 ・災害から市民の生命財産を守り、大規模災害発生時の被害を最小限にとどめるため、防災・震災対策を着実に実施し、市民が安全で安心できる避難体制の構築を進める。
			⑩	熊本市域における交通事故死傷者数を令和4年度末までに5%減少させる	3,903人	3,700人	1,973人	達成	

2 事業の効果の発現状況

事業の効果の発現状況

基幹事業

道路事業（長嶺東7丁目第2号線（長嶺東工区））

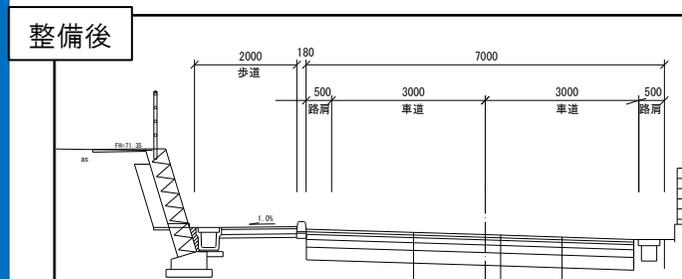
歩道の設置及び交差点の一部改良を行うことにより、円滑な交通の確保と利用者の安全性が向上している。また、本路線沿線に託麻まちづくりセンター（指定緊急避難所）が隣接しており、災害時の歩行避難に配慮した道路環境の整備にも寄与している。

■安全で円滑な道路交通の確保

整備前：十分な幅員がなく、交通渋滞及び交通事故発生の要因となっていた。
整備後：歩道整備、交差点改良により、上記が解消された。

■道路機能の向上

歩道整備・交差点の一部改良により、安全・円滑に通行することができる「通行機能」の向上



3 評価指標の最終目標値の達成状況

評価指標の最終目標値の達成状況

計画の成果指標 (定量的指標)	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			達成状況 (結果) (R4末)
		当初現況値 (H29末)	中間目標値 (R2末)	最終目標値 (R4末)	
計画の目標	<ul style="list-style-type: none"> 安全で安心して暮らせる交通社会の実現に向け、適切かつ効果的な道路整備を図る。 災害から市民の生命財産を守り、大規模災害発生時の被害を最小限にとどめるため、防災・震災対策を着実に実施し、市民が安全で安心できる避難体制の構築を進める。 				
熊本市域における交通事故死傷者数を令和4年度末までに5%減少させる。	年間交通事故死傷者数を調査する。	3,903人	3,800人	3,700人	達成 1,973人 49.5%減少
熊本市域における法面の安全対策が必要な箇所の対策実施率を令和4年度末までに100%向上させる。	熊本市域における法面の安全対策が必要な箇所の対策実施率。 (法面の安全対策を実施した箇所数 / 法面の安全対策が必要な箇所数 × 100)	0% 0/9箇所	60%	100% 9/9箇所	達成 100% 9/9箇所

4 対応方針（案）

市の対応方針

<p>今後の方針</p>	<p>本計画（第2期）の成果を踏まえ、令和5年から新たに着手している社会資本総合整備計画「安全で快適な道路環境の整備（防災・安全）（第3期）」に沿って、引き続き道路整備等を行うことで、災害から市民の生命財産を守り被害を最小限にとどめるため、防災・震災対策を着実に実施し、生活空間の安全確保を推進する取り組みを継続していく。</p>
<p>今後の事後評価の必要性</p>	<p>令和5年度より策定・開始済みの「安全で快適な道路環境の整備（防災・安全）（第3期）」の完了後にも事後評価を行う予定であるため、改めて本計画に対する事後評価（フォローアップ）は行わない。</p>
<p>改善措置の必要性</p>	<p>当初設定した指標についてはすべて達成している。今後も第3期計画において、引き続き事業推進していくことから改善措置の必要性はないと考える。</p>
<p>同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p>	<p>定量的指標については、見直しのうえ、新たな同種事業の計画に活かしていく。</p>

令和6年度（2024年度） 公共事業評価／評価資料

評価の種類	事後評価
事業（計画）名	社会資本総合整備計画 地域の暮らしやすさを実感できる防災・安全事業の推進（防災・安全）
事業（計画）期間	令和2年度～令和4年度（3年間）
担当課	都市建設局 土木部 道路計画課

1 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況

事業（計画）の概要

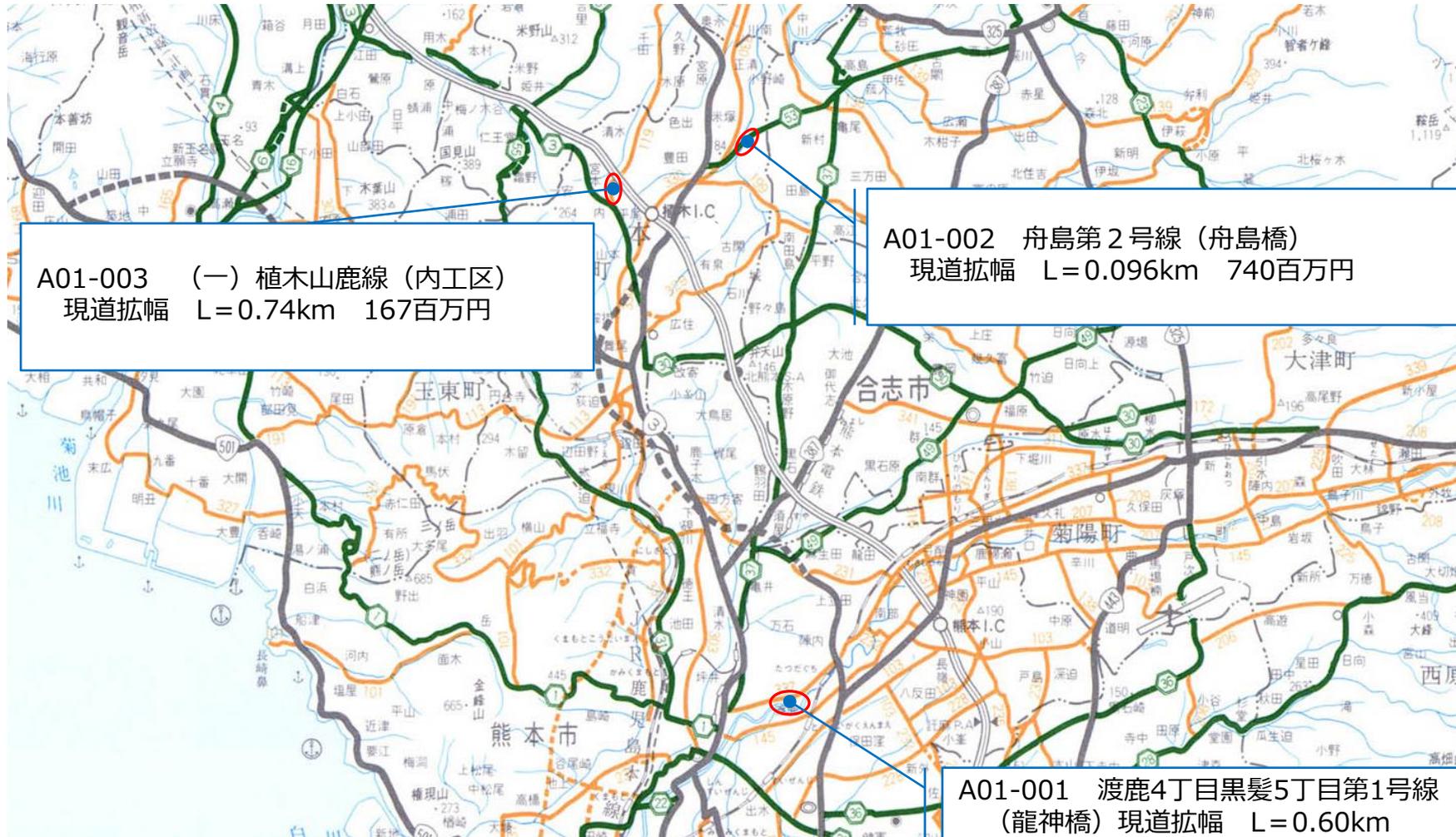
事業（計画）の名称	社会資本総合整備計画 地域の暮らしやすさを実感できる防災・安全事業の推進（防災・安全）	
事業（計画）期間	令和2年度～令和4年度（3年間）	
事業（計画）目標	・地域住民の安全・安心な生活のため、道路の機能向上および交通安全対策を図る。	
概要	A 基幹事業 （一）植木山鹿線（内工区） 現道拡幅 L = 0.74km、167百万円 ほか2事業	
事業費	1,557百万円	
経緯	H15 道路整備プログラムの策定 H24 道路整備プログラムの見直し（政令指定都市移行） R1 道路整備プログラムの見直し R2 整備計画「地域の暮らしやすさを実感できる防災・安全事業の推進（防災・安全）」事業着手	
定量的指標	熊本市域の橋梁長寿命化修繕計画における橋梁長寿命化率を令和4年度末までに100%に向上させる。	R2年度：0%⇒R4年度：100%
	熊本市域における交通事故死傷者数を令和4年度末までに5%減少させる。	R2年度：3,903人⇒R4年度：3,700人

交付対象事業

事業名	事業種別	事業箇所	事業内容	実施期間	事業費
A 基幹事業 (3事業)					
① 道路事業	道路	(一) 植木山鹿線 (内工区)	現道拡幅 L=0.74km	R2~R4	167百万円
		※ほか2事業		小計	1,557百万円
B 関連事業 (0事業)					
-	-	-	-	-	0百万円
C 効果促進事業 (0事業)					
-	-	-	-	-	0百万円
全体事業費 (A+B+C)					
					1,557百万円

※全事業については、別紙「事後評価書」の交付対象事業欄を参照。

事業概要図 (道路事業)



基幹事業：道路事業（（一）植木山鹿線（内工区））

事業内容

本路線は、熊本市北区植木町と山鹿市を結ぶ幹線道路である。沿線には熊本市立山本小学校、同山本保育園、熊本市営山本団地が立地しており、小学校の通学路として利用されているが、現道が狭隘で歩道がないことから、通行に支障をきたしている。本事業にて拡幅整備を行うことで自動車の走行環境を改善するとともに、通学路の安全性を向上させた。



引用：国土地理院地図

整備前



整備後



【6】地域の暮らしやすさを実感できる防災・安全事業の推進（防災・安全）

◇ 本計画では、下記に記載している「国の重点施策」に応じた事業を実施。

【国土強靱化地域計画に基づく事業】

- ・ **国土強靱化地域計画に基づく事業**であって、「国土強靱化地域計画」等や「道路整備プログラム」に事業内容※1が明記されている事業のうち、**早期の効果発現**※2が見込める事業

※1：事業内容とは、事業名・事業期間・全体事業費が記載されていることを要件とする

※2：早期の効果発現とは、3年以内に供用する事業

◇ 事業内容と成果指標の考え方（国の重点施策対象）

事業案件番号	重点施策	事業内容	全体事業費 (百万円)	指標番号	主な事業	成果指標設定の考え方
6	国土強靱化	現道拡幅 「舟島第2号線（舟島橋）」	740	⑦、⑩	（一）植木山鹿線（内工区）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本計画の全3事業の内容は下記の通り。各事業効果を踏まえ「熊本市域の橋梁長寿命化修繕計画における橋梁長寿命化率を令和4年度末までに100%に向上させる」と「熊本市域における交通事故死傷者数を令和4年度末までに5%減少させる」を成果指標として設定。 ・ 舟島第2号線（舟島橋）は、橋梁法定点検により判定区分Ⅲ（早期措置段階）であったもの。H24九州北部豪雨による河川改修と併せ、現道拡幅を伴う橋梁架け替えにより橋梁長寿命化対策を実施した。 ・ （一）植木山鹿線（内工区）は、北区植木町と山鹿市を結ぶ幹線道路であり、沿線には避難場所である山本小学校もある災害時の物資供給や避難経路としての重要な路線である。本路線は狭あい道で歩道がない状況であったことから、歩道設置を含め現道拡幅により安全性の向上と災害時の支援ルートを確保した。 ・ 渡鹿4丁目黒髪5丁目第1号線（龍神橋）は、熊本大学を始めとした黒髪周辺の文教地区と産業道路を結ぶ路線で、多くの歩行者や自転車が通行しているが、道路が狭あい道で円滑な交通および安全性の確保が課題であった。H24九州北部豪雨による河川改修と併せ、橋梁架け替えによる歩道設置を含めた現道拡幅を行うことで、交通状況の改善や歩行者や自転車の安全性向上を図った。
		現道拡幅 「（一）植木山鹿線（内工区）」 「渡鹿4丁目黒髪5丁目第1号線（龍神橋）」	817	⑩		

※上記3事業は、いずれも災害時の物資供給に資する事業として国土強靱化地域計画に位置付け、また道路整備PGへの事業詳細の記載あり。

◇ 本計画の定量的指標

事業案件番号	整備計画名称	計画期間	指標番号	定量的指標	当初現況値	最終目標値	実績値	判定	事業（計画）目標
6	地域の暮らしやすさを実感できる防災・安全事業の推進（防災・安全）	令和2年度～令和4年度	⑦	熊本市域の橋梁長寿命化修繕計画における橋梁長寿命化率を令和4年度末までに100%に向上させる	0%	100%	92%	未達成	・ 地域住民の安全・安心な生活のため、道路の機能向上および交通安全対策を図る。
			⑩	熊本市域における交通事故死傷者数を令和4年度末までに5%減少させる	3,903人	3,700人	1,973人	達成	

2 事業の効果の発現状況

事業の効果の発現状況

基幹事業
道路事業（（一）植木山鹿線
 （内工区））

狭隘な現道を道路拡幅、歩道整備することにより、安全・安心な道路空間の確保と利用者の安全性が向上している。また、山本小学校の通学路として利用されており、通学時の安全性向上に寄与している。

■ 安全で円滑な道路空間の確保

山本小学校の通学路として利用されているが、幅員が狭く離合が困難であり、自動車と歩行者が混在して通行する等、交通に支障が生じていた。整備後は、安全・安心な道路空間となり、自動車、歩行者ともに通行が可能になった。

■ 交通事故の減少

山本小学校付近の交通事故件数【イタルダデータ、熊本県警察HP】
 H26～H27 : 2件 → 直近3年 : 0件



3 評価指標の最終目標値の達成状況

評価指標の最終目標値の達成状況

計画の目標		地域住民の安全・安心な生活のため、道路の機能向上および交通安全対策を図る。			
計画の成果指標 (定量的指標)	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			達成状況 (結果) (R4末)
		当初現況値 (R2末)	中間目標値	最終目標値 (R4末)	
熊本市域の橋梁長寿命化修繕計画における橋梁長寿命化率を令和4年度末までに100%に向上させる。	熊本市域の橋梁長寿命化修繕計画における橋梁長寿命化率	0% 0/13橋	-	100% 13/13橋	未達成 92% 12/13橋
熊本市域における交通事故死傷者数を令和4年度末までに5%減少させる。	年間交通事故死傷者数を調査する。	3,903人	-	3,700人	達成 1,973人 49.5%減少

4 対応方針（案）

市の対応方針

<p>今後の方針</p>	<p>本計画については、整備計画期間内に対象事業は全て完了済である。</p>
<p>今後の事後評価の必要性</p>	<p>本計画に位置付けた事業は全て完了している。一部目標値に届いていない指標はあるが、各事業単位では整備効果を発現していることから、改めて本計画に対する事後評価（フォローアップ）は行わない。</p>
<p>改善措置の必要性</p>	<p>指標「熊本市域の橋梁長寿命化修繕計画における橋梁長寿命化率を令和4年度末までに100%に向上させる」については目標値に届いていないが、本計画に位置付けた事業は全て完了しており、かつ各事業においても整備効果は発現している。本指標を構成する他の関連事業についても、継続して事業推進していくことから改善措置の必要性はないと考える。</p>
<p>同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p>	<p>本計画については、計画完了しており、位置付けた事業についても全て完了し各事業において整備効果も発現していることから、見直しの必要性はない。</p>

令和6年度（2024年度） 公共事業評価／評価資料

評価の種類	事後評価
事業（計画）名	社会資本総合整備計画 安全で災害にもしなやかに対応できる無電柱化の推進 （無電柱化推進計画支援）（防災・安全）
事業（計画）期間	平成31年度～令和5年度（5年間）
担当課	都市建設局 土木部 道路計画課

1 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況

事業（計画）の概要

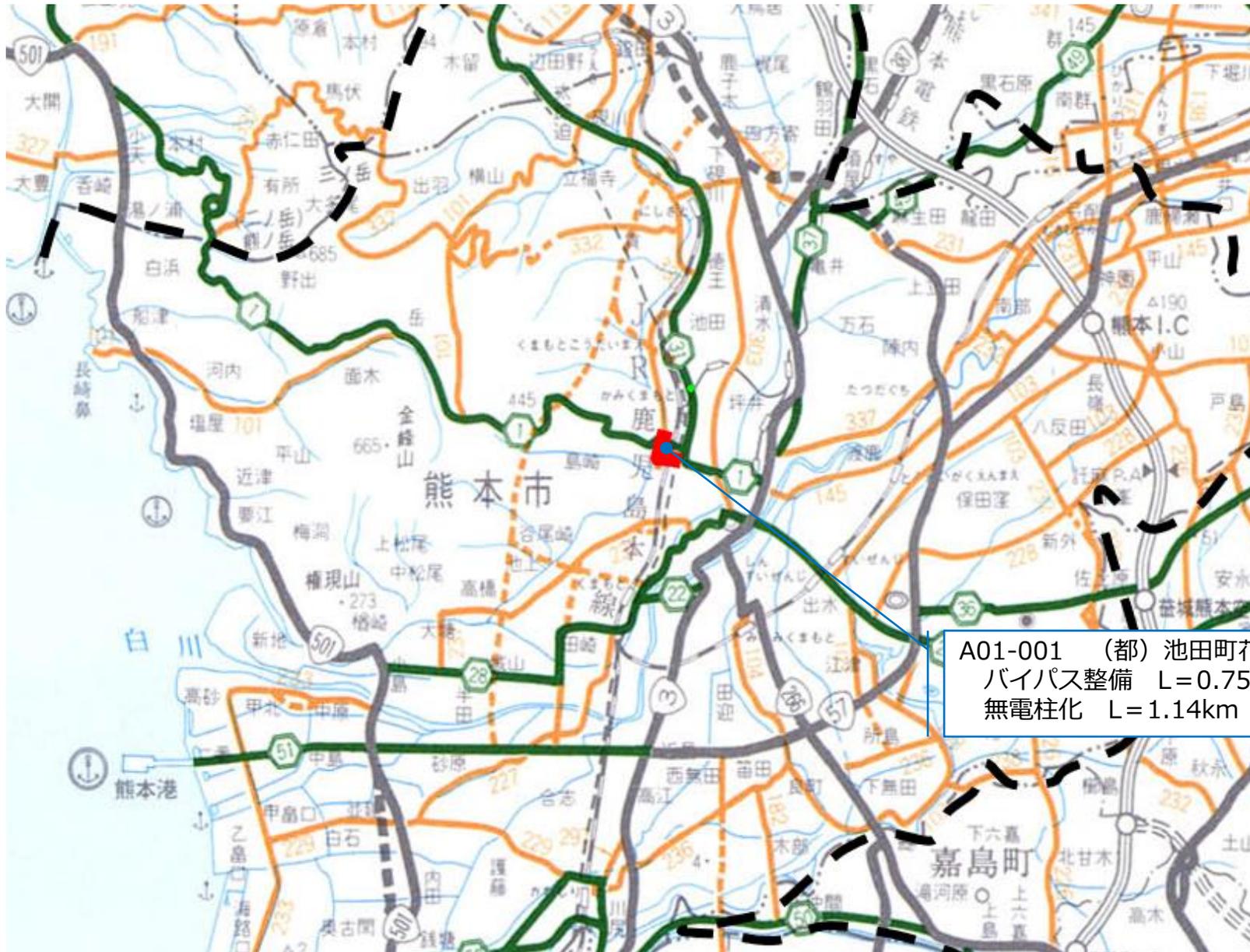
事業（計画）の名称	社会資本総合整備計画 安全で災害にもしなやかに対応できる無電柱化の推進（無電柱化推進計画支援） （防災・安全）
事業（計画）期間	平成31年度～令和5年度（5年間）
事業（計画）目標	・安全で災害にもしなやかに対応できる無電柱化の推進のため、電線共同溝の整備を図る。
概要	A 基幹事業 （都）池田町花園線ほか3線 バイパス整備 L = 0.75km、 無電柱化 L = 1.14km 4,648百万円
事業費	4,648百万円
経緯	H15 道路整備プログラムの策定 H24 道路整備プログラムの見直し（政令指定都市移行） H31 整備計画「安全で災害にもしなやかに対応できる無電柱化の推進（無電柱化推進計画支援） （防災・安全）」事業着手 R1 道路整備プログラムの見直し
定量的指標	熊本市域の無電柱化計画路線における緊急輸送道路の無電柱化完了率を令和5年度末までに94%に向上。 H30年度：89%⇒R5年度：94%

交付対象事業

事業名	事業種別	事業箇所	事業内容	実施期間	事業費
A 基幹事業（1事業）					
① 道路事業	街路	(都) 池田町花園線 ほか3線	バイパス整備 L=0.75km 無電柱化 L=1.14km	H31~R5	4,648百万円
				小計	4,648百万円
B 関連事業（0事業）					
-	-	-	-	-	0百万円
C 効果促進事業（0事業）					
-	-	-	-	-	0百万円
全体事業費（A+B+C）					
					4,648百万円

※全事業については、別紙「事後評価書」の交付対象事業欄を参照。

事業概要図 (道路事業)

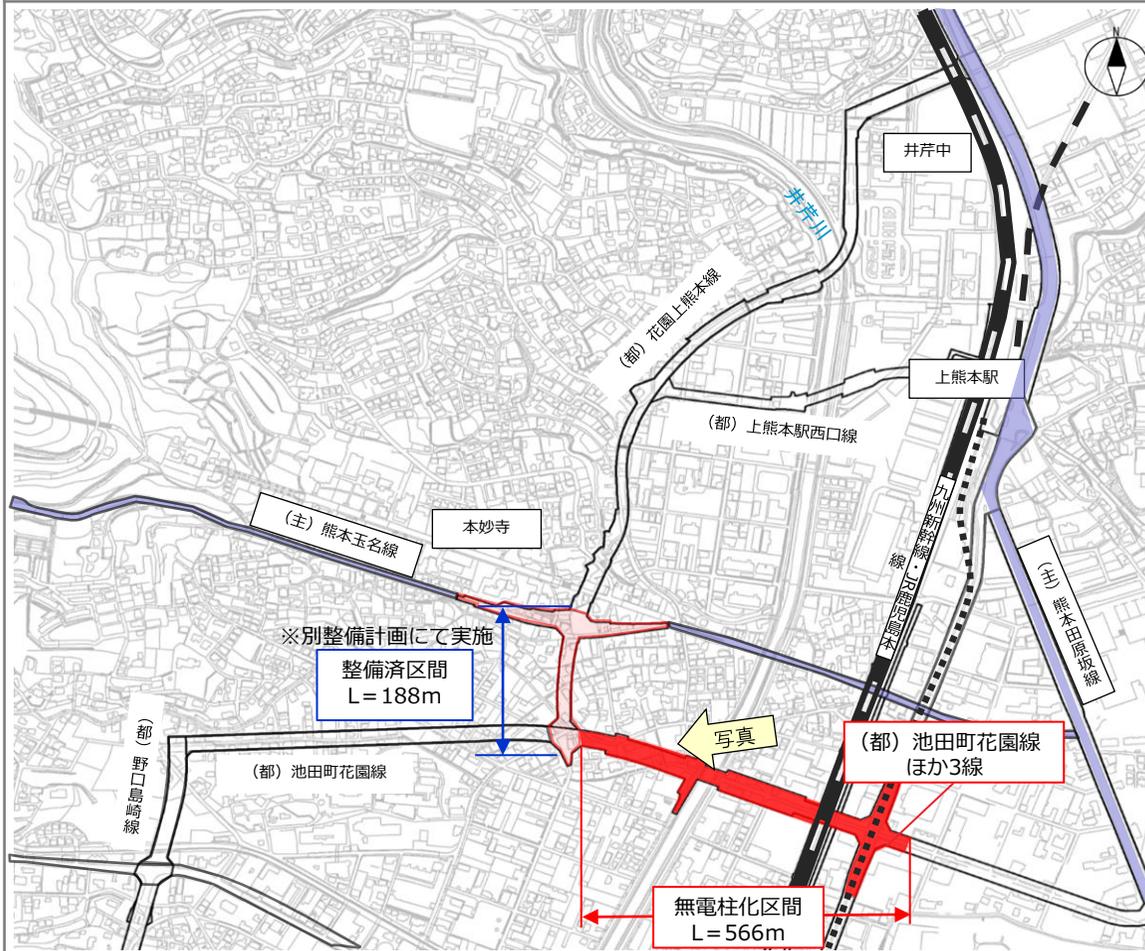


A01-001 (都) 池田町花園線ほか3線
 バイパス整備 L=0.75km、
 無電柱化 L=1.14km 4,648百万円

基幹事業：道路事業（（都）池田町花園線ほか3線）

事業内容

本路線は、一次緊急輸送道路である（主）熊本玉名線のバイパス道路であり、整備に併せて無電柱化に取り組むことにより、災害時のリダンダンシーを確保するもの。



現況



※バイパス整備と併せ、無電柱化に取り組んでいる路線。
 ※現在用地買収を実施しており、整備を進める。

【7】安全で災害にもしなやかに対応できる無電柱化の推進（無電柱化推進計画支援）（防災・安全）

◇ 本計画では、下記に記載している「国の重点施策」に応じた事業を実施。

【無電柱化推進計画支援事業】

- ・「無電柱化推進計画」に定めた目標の確実な達成に資する事業として、地方ブロック無電柱化協議会等で位置づけられており、法第8条に基づく「市町村無電柱化推進計画」に位置付けられている**無電柱化事業**

◇ 事業内容と成果指標の考え方（国の重点施策対象）

事業案件番号	重点施策	事業内容	全体事業費 (百万円)	定量的指標番号	主な事業	成果指標設定の考え方
7	無電柱化	無電柱化、バイパス整備 (1事業)	4,648	⑤	(都) 池田町花園線 ほか3線	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画は全1事業 ・「無電柱化」の事業実施により、災害時の人的被害や緊急輸送道路の閉塞、情報通信回線の被害等のリスク回避に寄与することから、「熊本市域の無電柱化計画路線における緊急輸送道路の無電柱化完了率を令和5年度末までに94%に向上させる」の成果指標を設定。

◇ 本計画の定量的指標

事業案件番号	整備計画名称	計画期間	指標番号	定量的指標	当初現況値	最終目標値	実績値	判定	事業（計画）目標
7	安全で災害にもしなやかに対応できる無電柱化の推進（無電柱化推進計画支援）（防災・安全）	平成31年度～ 令和5年度	⑤	熊本市域の無電柱化計画路線における緊急輸送道路の無電柱化完了率を令和5年度末までに94%に向上させる。	89%	94%	92%	未達成	・安全で災害にもしなやかに対応できる無電柱化の推進のため、電線共同溝の整備を図る。

2 事業の効果の発現状況

事業の効果の発現状況

基幹事業
道路事業（（都）池田町花園線ほか3線）

（主）熊本玉名線は、西区河内町と熊本市中心部を結ぶ一次緊急輸送道路であるが、一部は歩道のない狭隘な道路となっており、電柱倒壊等による全面通行止めが想定される。本事業でバイパス整備にあわせて無電柱化を実施し、災害時のリダンダンシー確保を図ることで、緊急輸送道路の閉塞による復旧や人命救助への遅れなどのリスクを回避でき、安全で災害にもしなやかに対応できるまちづくりに寄与している。

■ 現在の一次緊急輸送道路の状況



（主）熊本玉名線 【一次緊急輸送道路】



（主）熊本玉名線 【一次緊急輸送道路】

■ 無電柱化整備イメージ（参考：熊本市無電柱化実施路線）



（都）田崎春日線の無電柱化状況



（都）春日池上線の無電柱化状況

3 評価指標の最終目標値の達成状況

評価指標の最終目標値の達成状況

計画の目標	安全で災害にもしなやかに対応できる無電柱化の推進のため、電線共同溝の整備を図る。				
計画の成果指標 (定量的指標)	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			達成状況 (結果) (R5末)
		当初現況値 (H30末)	中間目標値 (R3末)	最終目標値 (R5末)	
熊本市域の無電柱化計画路線における緊急輸送道路の無電柱化完了率を令和5年度末までに94%に向上。	熊本市域の無電柱化計画路線における緊急輸送道路の無電柱化率。 (無電柱化計画路線における緊急輸送路の無電柱化整備完了延長 / 無電柱化計画路線における緊急輸送路の無電柱化整備計画延長 × 100)	89% 14.45/16.12km	92%	94% 15.16/16.12km	未達成 92% 14.97/16.12km

4 対応方針（案）

市の対応方針

<p>今後の方針</p>	<p>本計画としては計画完了するが、未完了事業については、令和5年から新たに着手している他の関連する計画等において引き継いでおり、引き続き道路整備等を行い、事業推進する取り組みを継続していく。</p>
<p>今後の事後評価の必要性</p>	<p>本計画の未完了事業については、令和5年から新たに着手している他の関連する計画等の完了後にも事後評価を行う予定であるため、改めて本計画に対する事後評価（フォローアップ）は行わない。</p>
<p>改善措置の必要性</p>	<p>指標「熊本市域の無電柱化計画路線における緊急輸送道路の無電柱化完了率を令和5年度末までに94%に向上させる」については目標値に届いていないが、事業完了することで整備効果を発現するため、今後、他の関連する計画等において継続して事業推進していくことから改善措置の必要性はないと考える。</p>
<p>同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p>	<p>本計画については、計画完了していることから見直しの必要性はない。未完了事業については、他の関連する計画等において事業推進していくため、他計画等にて見直しを行う。</p>

令和6年度（2024年度） 公共事業評価／評価資料

評価の種類	事後評価
事業（計画）名	社会資本整備総合交付金 公共交通を基軸としたまちづくり（第2期）
事業（計画）期間	平成31年度～令和5年度（5年間）
担当課	都市建設局 交通政策部 移動円滑推進課

1 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況

事業（計画）の概要

事業（計画）の名称	社会資本整備総合交付金 公共交通を基軸としたまちづくり（第2期）	
事業（計画）期間	平成31年度～令和5年度（5年間）	
事業（計画）目標	誰もが安全で快適に移動できる公共交通体系の確立や都市機能の維持・確保を推進し、長期的な都市活力や魅力の維持を図るもの。	
概要	<p>A 基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A13-001 熊本市一円地区都市交通システム整備事業 61百万円 ほか6事業 <p>C 効果促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ C13-001 交通ルール・マナーアップ促進事業 2百万円 	
事業費	2,690百万円	
経緯	<p>H30 整備計画の策定</p> <p>H31～ 事業着手</p>	
定量的指標	①熊本都市圏における公共交通利用者数	H29年度当初：53,088千人/年 ⇒ R5年度目標：56283千人/年
	②熊本市電の利用者数	H29年度当初：11,094千人/年 ⇒ R5年度目標：11401千人/年
	③居住誘導区域内の人口密度	H29年度当初：61人/ha ⇒ R5年度目標：61人/ha
	④交通結節点における駐輪場利用台数	H29年度当初：4,942台/日 ⇒ R5年度目標：5,620台/日
	⑤熊本市域の年間交通事故死傷者数	H29年度当初：3,484人/年 ⇒ R5年度目標：3,200人/年

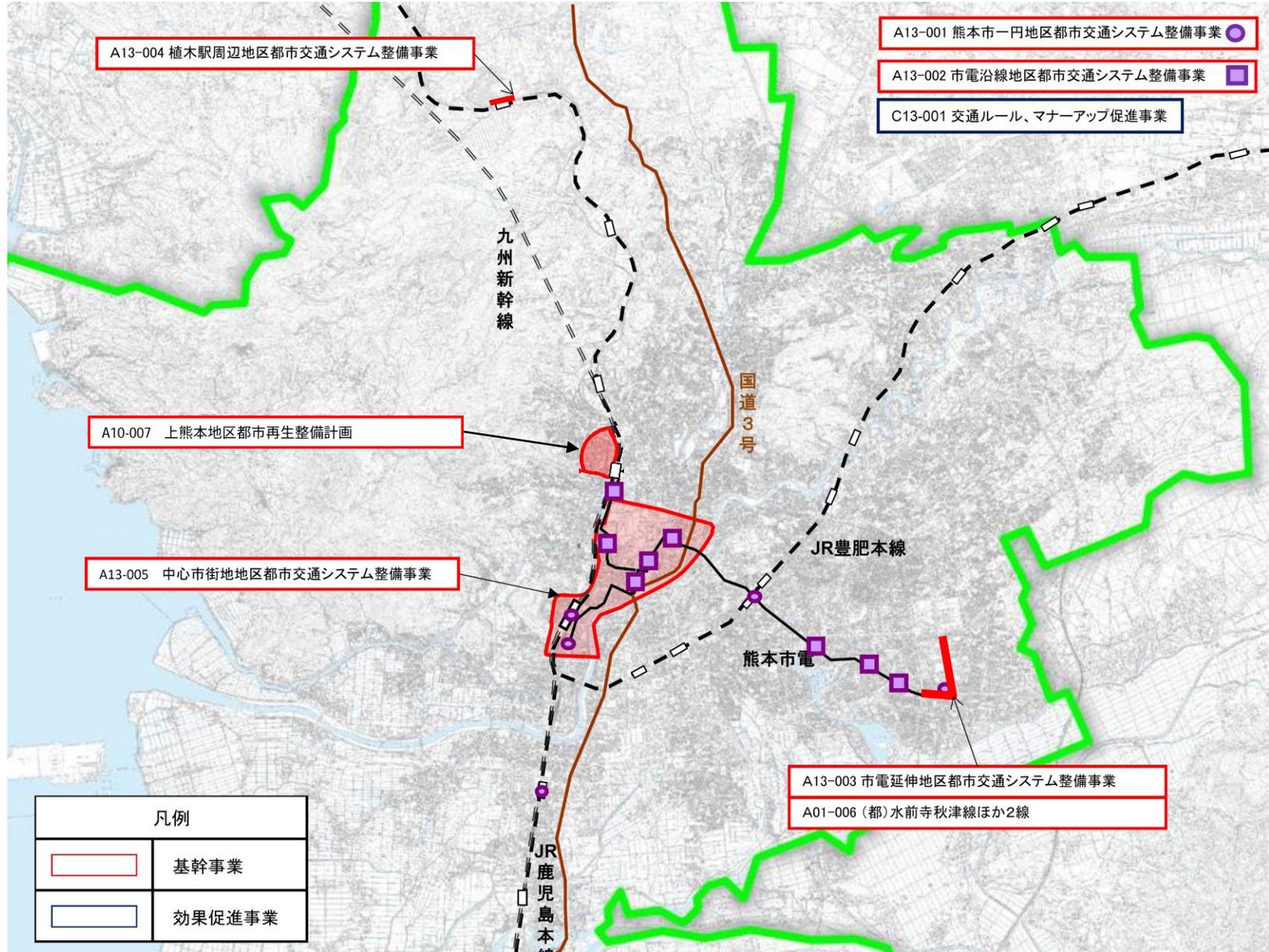
交付対象事業

事業名	事業種別	事業箇所	事業内容	実施期間	事業費
A 基幹事業（7事業）					
熊本市一円地区都市交通システム整備事業	都市交通	熊本市	自転車駐輪場整備	H31～R5	61百万円
市電沿線地区都市交通システム整備事業	都市交通	熊本市	電停改良（バリアフリー化）、軌道敷緑化、電停上屋設置	H31～R5	1,392百万円
		※ほか5事業		小計	2,688百万円
B 関連事業					
-	-	-	-	-	-
C 効果促進事業（1事業）					
交通ルール・マナーアップ促進事業	都市交通	熊本市	自転車交通安全啓発教育	H31～R5	2百万円
全体事業費（A+B+C）					
					2,690百万円

※全事業については、別紙「事後評価書」の交付対象事業欄を参照。

事業概要図

公共交通を基軸としたまちづくり（第2期）

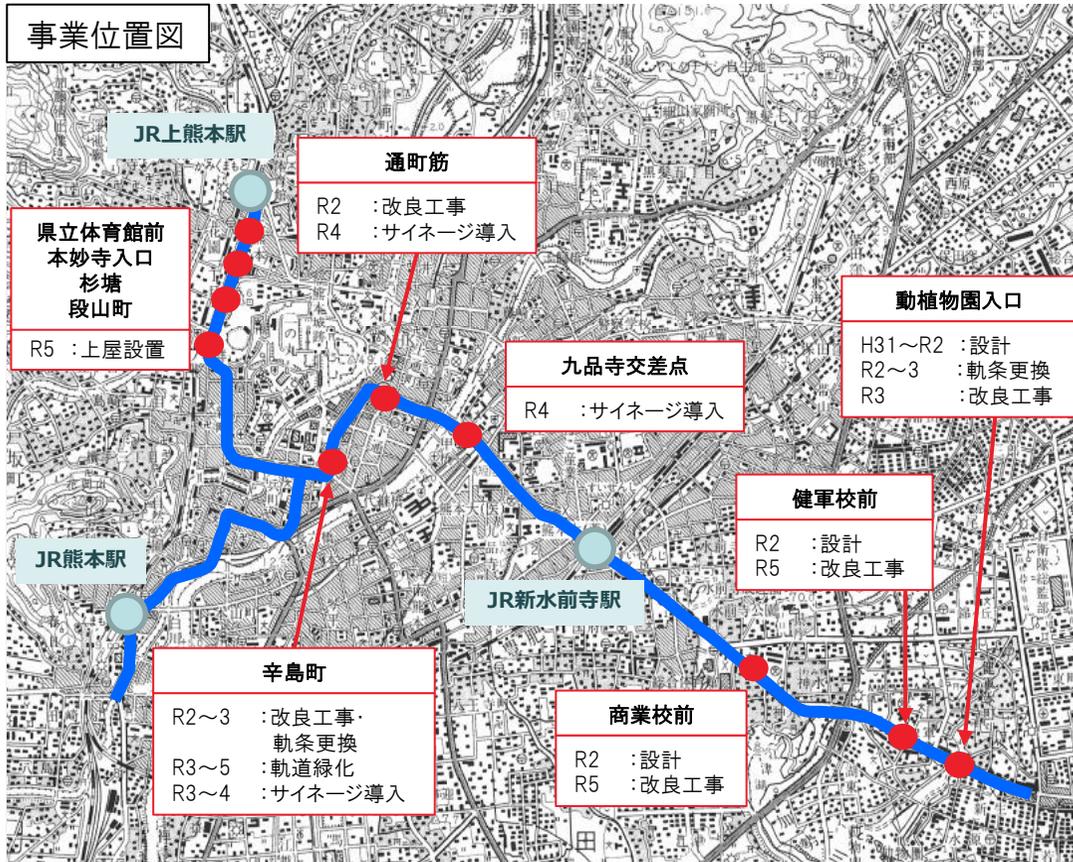


基幹事業：市街地整備事業（A13-002）

事業内容

市電沿線地区都市交通システム整備事業 : 1,392百万

事業位置図



【主な事業内容】

○電停改良

バリアフリー新法に基づき、電停幅員の拡幅、スロープや上屋の設置等により電停のバリアフリー化を行い安全で使いやすい環境を整備するもの。

○軌道緑化

ヒートアイランド現象の緩和、騒音低減、都市景観の向上などの役割を持った市電軌道敷の緑化を推進し、景観ネットワークの拡充を図るもの。

○上屋設置

交通局が実施したアンケートにて、電停施設に関する不満が最も高く、電停に屋根を付けて欲しいとの意見があったことから上屋設置を実施するもの。

動植物園入口電停



基幹事業：市街地整備事業（A13-004）

事業内容

植木駅周辺都市交通システム整備事業 : 105百万

【事業概要】

植木駅の通勤・通学時間帯において送迎による混雑が生じており、駅利用者及び駅周辺住民の安全性が確保されていない状況を改善するもの。

【事業概要】

路線バスの停留所及び一般車停車バスを含むロータリー施設等を整備し、バス利用者の利便性向上と一般利用者の安全性向上を図ったもの。

【設計コンセプト】

- ① 朝夕のラッシュ時に安全に利用可能な送迎スペースを確保
- ② 車両導線と歩行者導線が分離された安全なロータリーを整備
- ③ 十分な自転車収容台数を確保し、安全で利便性の高い駐輪場を整備

○ロータリー



○駐輪場



基幹事業：市街地整備事業（A13-005）

事業内容

中心市街地地区都市交通システム整備事業：31百万

駐車場整備計画作成等

【まちなか駐車場適正化計画策定】

多核連携都市の実現に向け、駐車場の観点から駐車場を『コントロール（総量と配置の適正化）』し、まちづくりに活かす。
3つの基本方針にもとづき8つの施策を推進するもの。

【計画期間】

令和3年4月1日～令和13年3月31日まで
（10年間）

【基本方針】

基本方針①

「土地利用の視点」

基本方針②

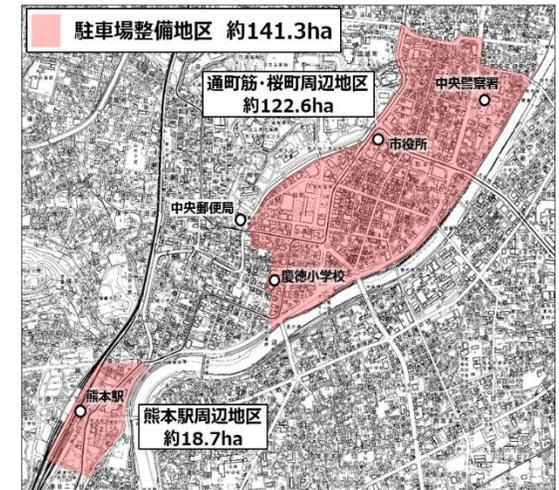
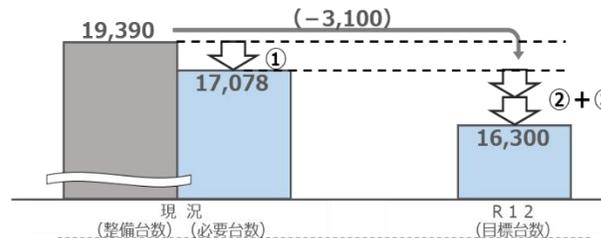
「交通円滑化の視点」

基本方針③「使い方」の視点

施策の具体的検討内容については熊本市駐車場適正配置検討委員会で検討している。

■駐車場の目標量

駐車場整備地区	現況（R3）		将来（R12）
	整備台数	必要台数	目標台数
駐車場整備地区	19,390	17,078	16,300 (-3,100台)
通町筋・桜町周辺地区	16,476	14,169	13,500
熊本駅周辺地区	2,914	2,908	2,800



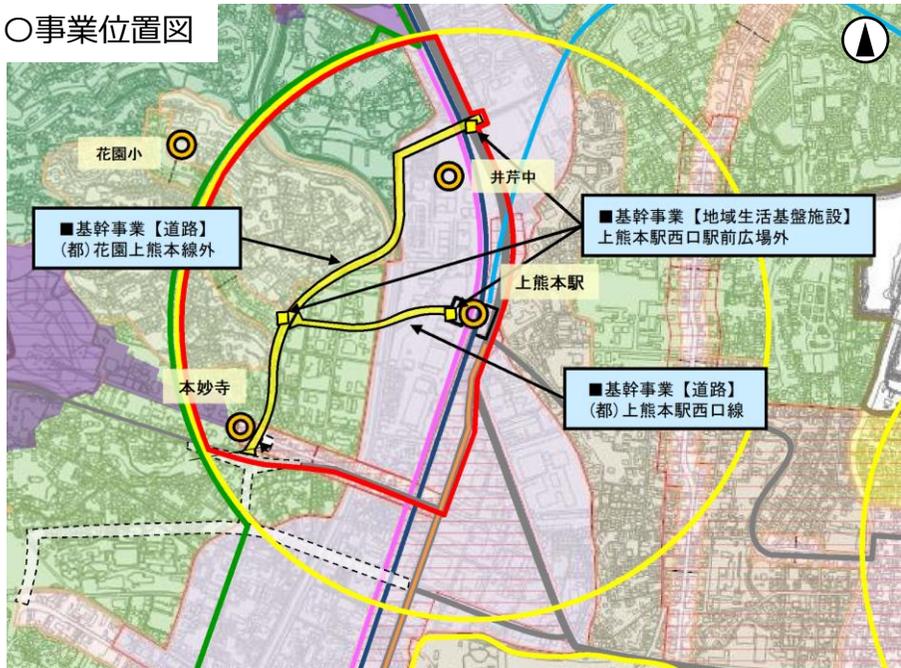
スケジュール	実施内容
令和元年7月2日～令和3年3月19日	計画策定調査業務委託
令和2年11月24日～令和3年6月30日	集約駐車施設適正配置検討業務委託
令和2年12月21日	仮策定
令和4年3月31日	計画策定

基幹事業：都市再生整備計画事業（A10-007）

事業内容

上熊本地区都市再生整備計画 : 1,099百万

○事業位置図



凡例	
—	都市再生整備計画の区域
—	都市機能誘導区域
—	居住誘導区域
 	■ 基幹事業
 	□ 提案事業
○	主要施設
—	新幹線
—	在来線(高架)
—	熊本電鉄(私電)
—	熊本市電
 	DID地区外

○事業概要

熊本市立地適正化計画により都市機能誘導区域に指定されている上熊本地区において、都市計画道路の整備を行い、円滑な交通の確保はもとより、安全で快適なまちづくりを行い、地区の活性化を図る。

○施工前と施工後（花園池亀線橋梁付近）



橋梁施工前

橋梁施工後

効果促進事業：交通ルール・マナーアップ促進事業（C13-001）

事業内容

熊本市中高生を対象とした自転車交通安全教育業務 : 2百万

【事業目的】

交通事故発生件数の1割強を占める「自転車乗用中の事故」について、中・高校生に対し、実際の事例等を用いた安全教育を実施し、ルールやマナーの重要性を認識させ、交通事故防止を図る。

【事業概要】

実際の自転車事故事例の紹介や自転車安全利用五則、自転車保険等を盛り込んだ講義型の自転車交通安全教育を実施。

【事業実績（自転車教室開催数）】

H31年度

中学校 10回 (受講者4,294人)

高校 11回 (受講者7,260人)

R 2年度

中学校 5回 (受講者 917人)

高校 11回 (受講者6,714人)

R 3年度

中学校 5回 (受講者1,469人)

高校 13回 (受講者8,006人)



(教室開催の様子)

※平成31年度2月下旬から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、制限しながらの実施となった。

2 事業の効果の発現状況

事業の効果の発現状況

基幹事業：
市電沿線地区都市交通システム整備事業

バリアフリー新法に基づき、電停幅員の拡幅やスロープ・上屋の設置などにより電停のバリアフリー化を行い、誰もが安全で利用しやすい環境を整備した。以下、辛島町電停の事業効果について記載。

事業内容と効果

【事業内容】

- 電停幅員の拡幅：W=1.00~1.05m → W=1.50m
- ホーム長の延長：L=22~23m → L=25~30m
- 面積の拡大：A=22~24㎡ → A=37~45㎡
- 視覚障害者誘導用ブロックの設置
- スロープへの手すり設置

基本条件抜粋

- 幅員：1車椅子の転回に配慮し、1.5mとする
- 延長：最大30mの車両のドアが収まる長さとして、ホーム長25m



【効果】

- 車いす利用者を含む市電利用者の利便性が向上
- 電停内での対面通行が可能となるため、乗降がスムーズになり、市電運行の定時性及び安全性が向上
- 電停拡幅により電停内での待機可能人数が増え、乗車待ち及び横断待ちが可能となり、安全性が向上

整備時期 : R2~R4年度
事業費 : 594,278千円

現地写真



2 事業の効果の発現状況

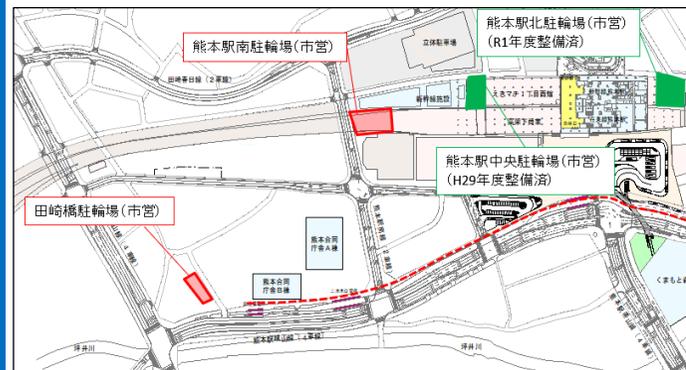
事業の効果の発現状況

基幹事業：
熊本市一円地区都市交通システム整備事業

都市・地域交通戦略に位置付けられた交通結節点における駐輪場の整備を行うもので、自転車の利用促進を図る（サイクル&ライドの促進）ことを目的とする。
計画期間中、3か所の駐輪場を新設した。

■ 熊本駅南駐輪場（自転車438台，原付150台） 令和2年度整備 28,589千円

■ 田崎橋駐輪場（自転車200台） 令和1～2年度整備 62,624千円



● 田崎橋電停付近の放置自転車



● 「田崎橋駐輪場」を新設



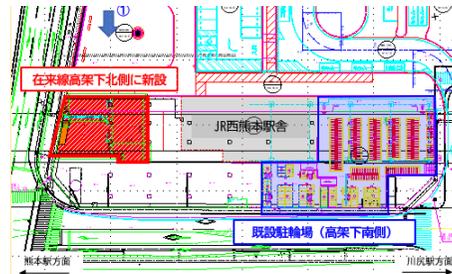
● 熊本駅仮設駐輪場



● 高架下に「熊本駅南駐輪場」を新設



■ 西熊本駅駐輪場（自転車200台） 令和4年度整備 13,798千円



● 既設駐輪場（南側）であふれている自転車



● 駅舎北側に駐輪場を新設



3 評価指標の最終目標値の達成状況

評価指標の最終目標値の達成状況

計画の目標		誰もが安全で快適に移動できる公共交通体系の確立や都市機能の維持・確保を推進し、 長期的な都市活力や魅力の維持を図る				※はR5年実績値
計画の成果指標 (定量的指標)	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			達成状況 (結果) (R5)	
		当初現況値 (H29)	中間目標値 (R3)	最終目標値 (R5)		
公共交通利用者数の増加	熊本都市圏における公共交通（鉄道、軌道、バス）利用者数を測定する	53,088 千人/年	55,356 千人/年	56,283 千人/年	未達成 ※50,946千人	
市電利用者数の増加	熊本市電の利用者数を測定する	11,094 千人/年	11,301 千人/年	11,401 千人/年	未達成 ※10,088千人	
居住誘導区域内の人口密度の維持	居住誘導区域内の人口密度を測定する	61人/ha	61人/ha	61人/ha	達成 ※62人/ha	
交通結節点における駐輪場利用台数の増加	交通結節点における駐輪場利用台数を測定する	4,942台/日	5,590台/日	5,620台/日	達成 ※5,789台/日	
熊本市域における交通事故死傷者数の減少	年間交通事故死傷者数を調査する	3,484人/年	3,300人/年	3,200人/年	達成 ※2,063人/年	

4 対応方針（案）

市の対応方針

<p>今後の方針</p>	<p>本計画の後に継続して実施している「公共交通を基軸としたまちづくり（第3期）」にて、引き続き公共交通の整備に係る取組を実施。 計画期間：2024年度～2028年度 （令和6年度～10年度）</p>
<p>今後の事後評価の必要性</p>	<p>令和6年度より実施している「公共交通を基軸としたまちづくり（第3期）」において、完了後に公共事業評価を実施するため、当該計画（第2期）に対する事後評価（フォローアップ）は想定していない。</p>
<p>改善措置の必要性</p>	<p>5つの成果指標のうち2つ（公共交通利用者数の増加、市電利用者数の増加）が未達成であったが、事後評価書に記載のとおり、その原因が新型コロナウイルス感染拡大という想定外の事象にあり、また、昨今は本整備計画実施等により増加傾向にあることを鑑み、改善措置の必要性はないと思案している。</p>
<p>同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p>	<p>「公共交通を基軸としたまちづくり（第3期）」において、中心市街地地区での駐車場に関する施策による効果の発現状況の確認のため、成果指標の項目の見直しを実施している。</p>

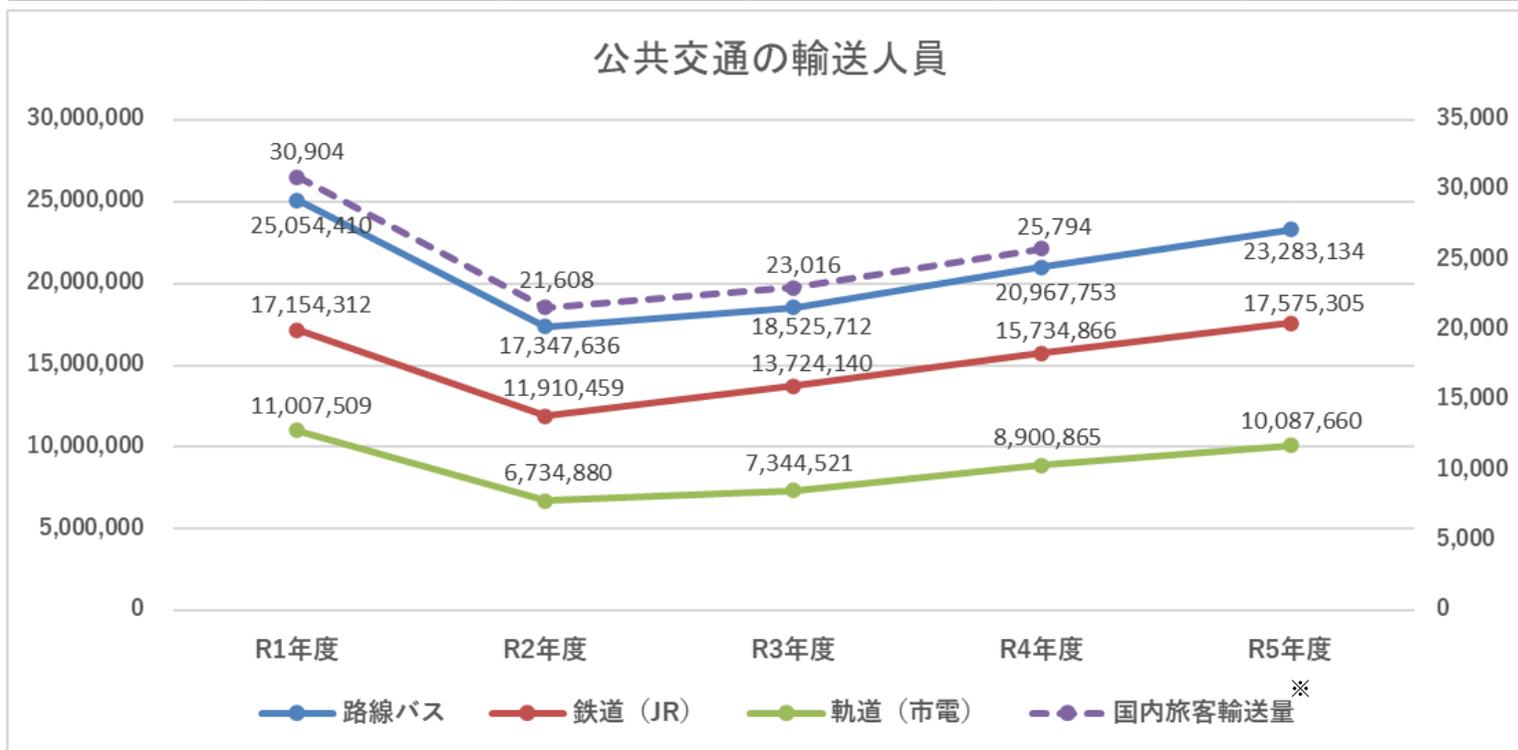
〈参考資料〉

整備計画期間における公共交通利用者数の推移

単位：人

単位：百万人

	路線バス	鉄道 (JR)	軌道 (市電)	合計	国内旅客輸送量 [※]
R1年度	25,054,410	17,154,312	11,007,509	53,216,231	30,904
R2年度	17,347,636	11,910,459	6,734,880	35,992,975	21,608
R3年度	18,525,712	13,724,140	7,344,521	39,594,373	23,016
R4年度	20,967,753	15,734,866	8,900,865	45,603,484	25,794
R5年度	23,283,134	17,575,305	10,087,660	50,946,099	-



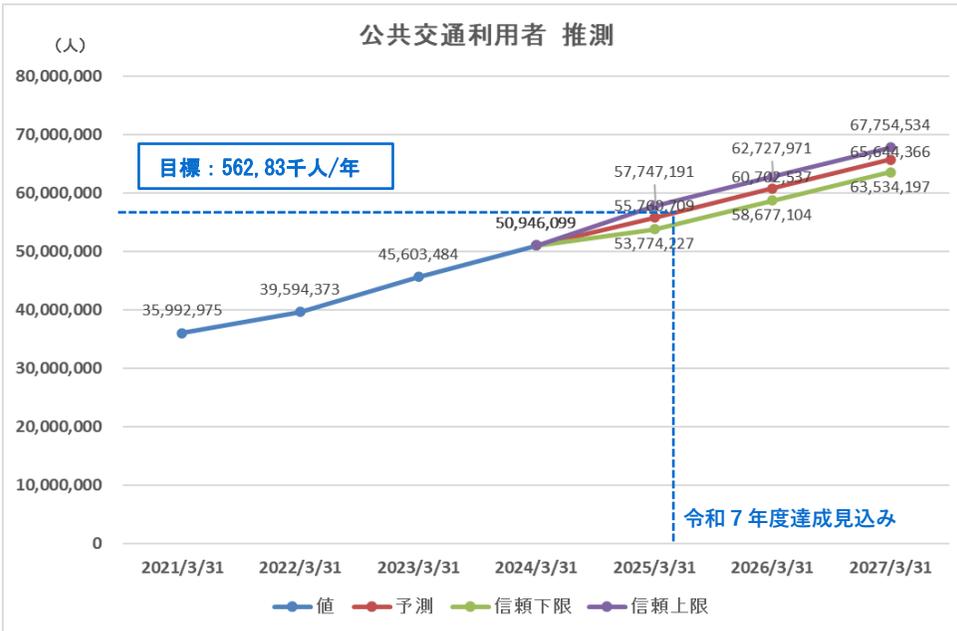
※：令和6年度交通政策白書より。令和4年度が最新。

〈参考資料〉

公共交通利用者数の推測

※信頼区間99%

年度	公共交通利用者数	予測	信頼下限	信頼上限
R2	35,992,975			
R3	39,594,373			
R4	45,603,484			
R5	50,946,099	50,946,099	50,946,099	50,946,099
R6		55,760,709	53,774,227	57,747,191
R7		60,702,537	58,677,104	62,727,971
R8		65,644,366	63,534,197	67,754,534



市電利用者数の推測

※信頼区間99%

年度	市電利用者数	予測	信頼下限	信頼上限
R2	6,734,880			
R3	7,344,521			
R4	8,900,865			
R5	10,087,660	10,087,660	10,087,660	10,087,660
R6		11,170,602	10,447,932	11,893,273
R7		12,279,701	11,542,861	13,016,542
R8		13,388,801	12,621,134	14,156,467

